

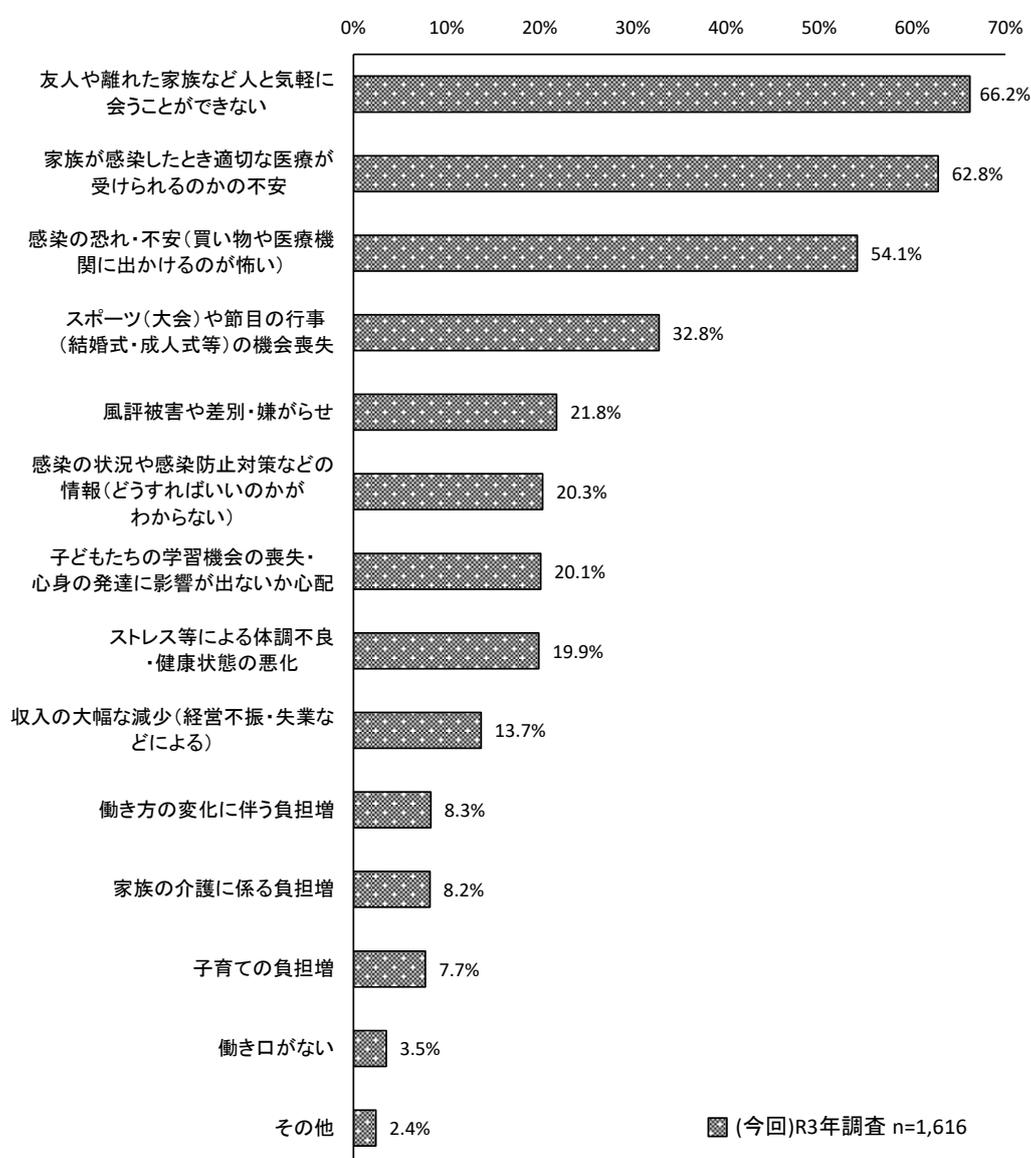
1-6 新型コロナウイルス感染症に伴う影響

(1) 困っていること・不安に感じていること

問9 新型コロナウイルス感染症の拡大が経済社会に大きな影響を及ぼしていますが、あなたが、特に困っていること、不安に感じていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、困っていること・不安に感じていることをたずねました。困っていること・不安に感じていることとしては、「友人や離れた家族など人と気軽に会うことができない」が66.2%と最も高く、次いで「家族が感染したとき適切な医療が受けられるのかの不安」が62.8%、「感染の恐れ・不安(買い物や医療機関に出かけるのが怖い)」が54.1%でした。この3つの項目については、回答者の半数以上が回答しています。

図表 1-6-1 困っていること・不安に感じていること -複数回答(該当するものすべて) -



なお、調査期間となった令和3年7月31日から8月16日は、第5波の時期にあたり感染者が全国的に急拡大している時期でした。

<p>《参考》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月30日時点で6都府県（東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪、沖縄）に緊急事態宣言が発出中。 ・愛知県は「まん延防止等重点措置」が継続中で、その後の拡大により8月25日には緊急事態宣言が発出されました。

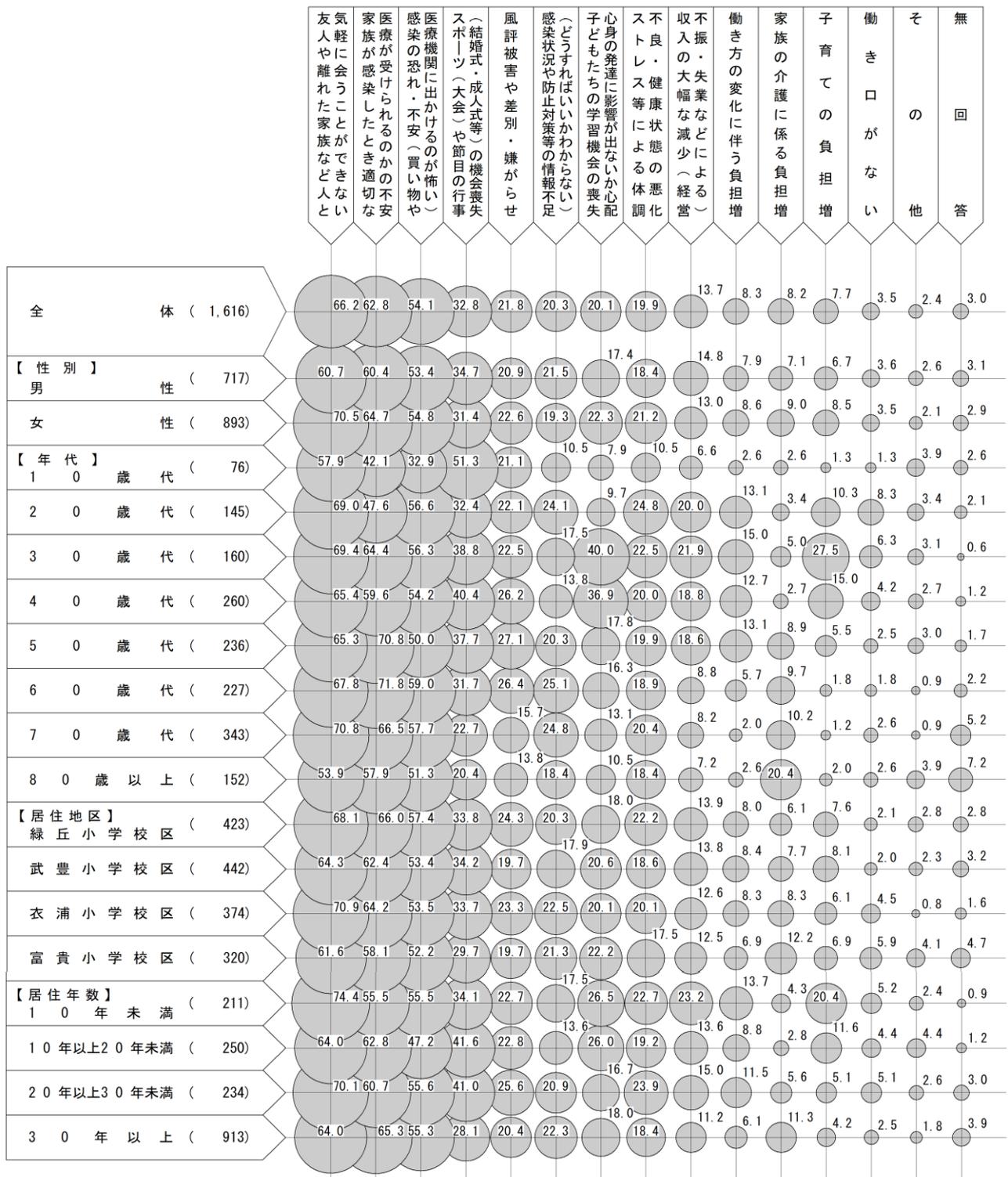
新型コロナウイルス感染症の拡大により、困っていること・不安に感じていることについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	<p>○「友人や離れた家族など人と気軽に会うことができない」は、男性では60.7%であるのに対して、女性は70.5%で、女性の方が9.8ポイント高くなっています。</p> <p>○このほか性別による顕著な差異はみられません。</p>
年代	<p>○10歳代では、「友人や離れた家族など人と気軽に会うことができない」の57.9%に次いで、「スポーツ（大会）や節目の行事（結婚式・成人式等）の機会喪失」の51.3%が多く、半数以上となっています。</p> <p>○30歳代、40歳代では、上位の3つの項目は全体的な傾向と同様ですが、「子どもたちの学習機会の喪失、心身の発達に影響が出ないか心配」や「子育ての負担増」が相対的に高くなっています。</p> <p>○20歳代から50歳代にかけては、「収入の大幅な減少（経営不振、失業などによる）」が概ね20%となっています。これらの働き盛りの年齢層では約2割が経済的に影響を受けている様子がうかがえます。</p>
居住地区	<p>○居住地区による顕著な差異はみられません。</p>
居住年数	<p>○居住年数10年未満や10年以上20年未満といった比較的居住年数が短い世代では、「子どもたちの学習機会の喪失」「子育ての負担増」「収入の大幅な減少」などが相対的に高くなっています。</p>
世帯構成	<p>○2世代家族、3世代家族等では、「スポーツ（大会）や節目の行事（結婚式・成人式等）の機会喪失」「子どもたちの学習機会の喪失、心身の発達に影響が出ないか心配」が相対的に高くなっています。</p> <p>○3世代家族等では「収入の大幅な減少（経営不振、失業などによる）」が21.8%となっており、全体の13.7%を8.1ポイント上回っています。</p> <p>○単身世帯では、「ストレス等による体調不良・健康状態の悪化」が23.7%とやや高くなっています。</p>
同居家族	<p>○6才未満の子どもがいる世帯や6歳以上18才未満の子どもがいる世帯では、「スポーツ（大会）や節目の行事（結婚式・成人式等）の機会喪失」「子どもたちの学習機会の喪失」「子育ての負担増」が相対的に高くなっています。</p> <p>○介護を要する方がいる世帯では、「家族の介護に係る負担増」が44.8%となっており、全体の8.2%を36.6ポイントも上回っている点が特徴です。</p>

<p>職業</p>	<p>○自営業では「収入の大幅な減少」が 47.4%となっています。自営業の半数近くは収入面での影響を受けていることがうかがえます。農業でも「収入の大幅な減少」は 29.4%となっており相対的に高くなっています。</p> <p>○公務員では、「子どもたちの学習機会の喪失、心身の発達に影響が出ないか心配」が 51.1%と相対的に非常に高くなっています。</p>
<p>通勤 通学地</p>	<p>○通勤通学地による顕著な差異はみられません。</p>

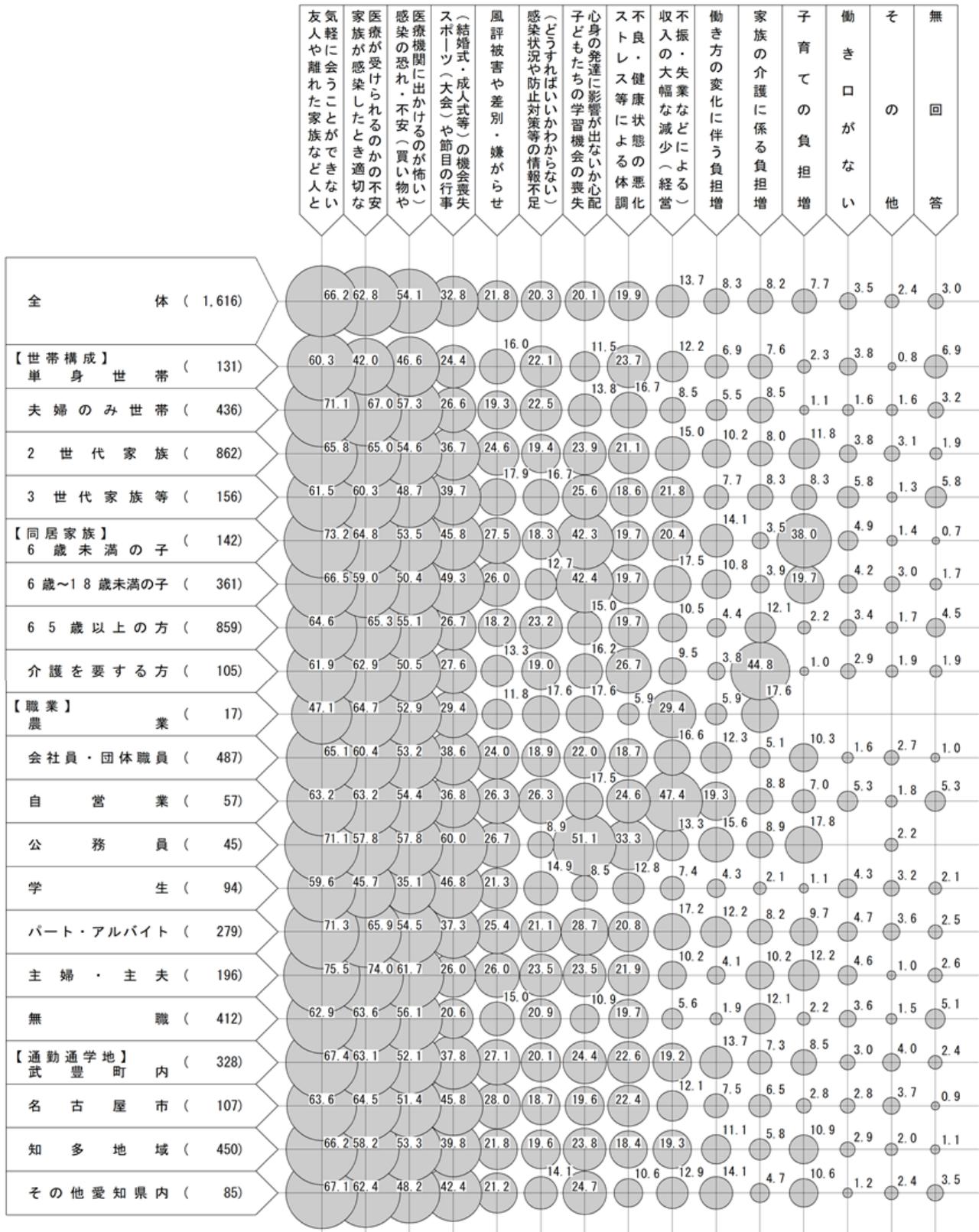
図表 1-6-2 属性別、困っていること・不安に感じていること (1/2)

-複数回答(該当するものすべて)-



図表 1-6-3 属性別、困っていること・不安に感じていること (2/2)

-複数回答(該当するものすべて)-



(2) 行政に期待すること

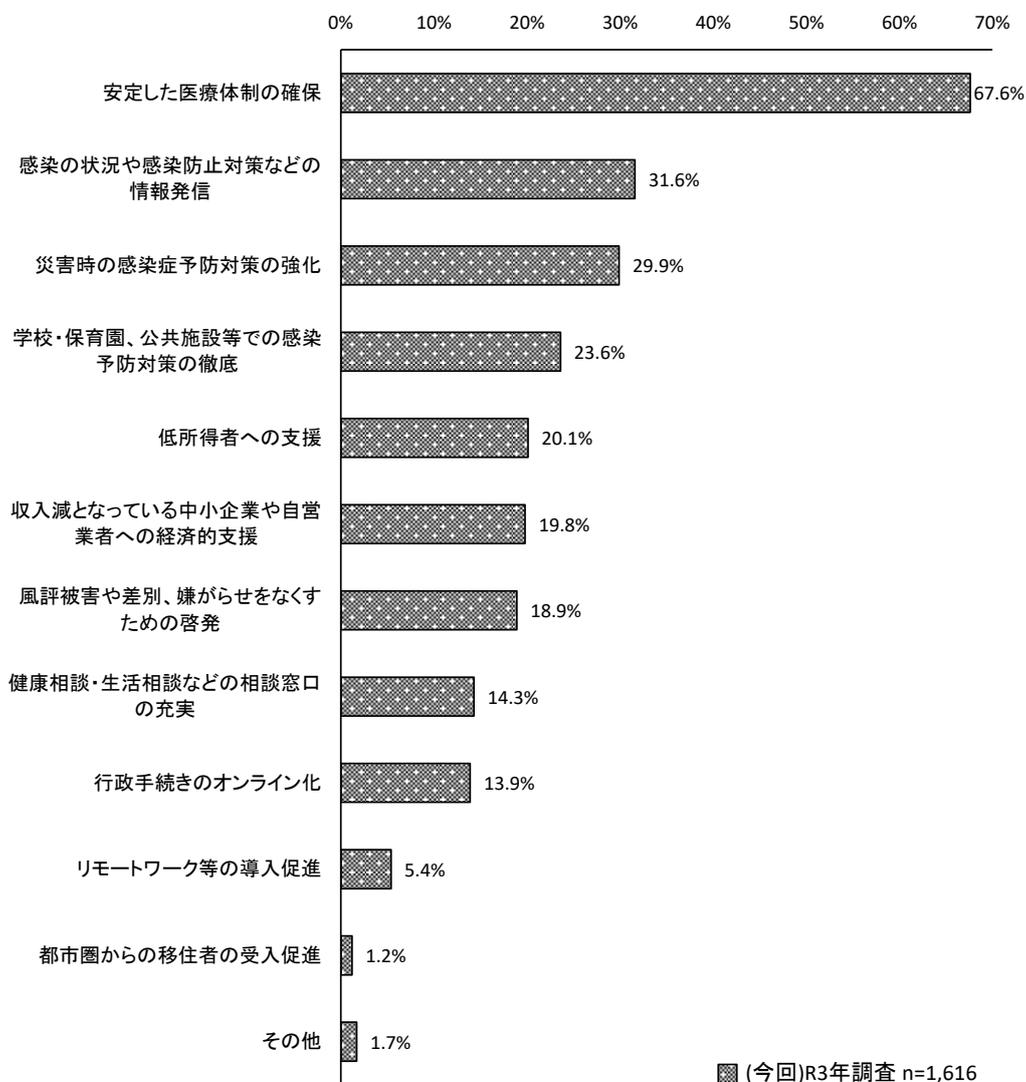
問 10 新型コロナウイルス感染症への対策として、あなたが行政に期待することは何ですか。
(3つまでに○印)

新型コロナウイルス感染症への対策として行政に期待することとしては、「安定した医療体制の確保」が特に高く 67.6%となっています。第5波で感染者が急拡大していた時期であったこともこうした結果に影響したものと思われます。

次いで、「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」の 31.6%、「災害時の感染症予防対策の強化」の 29.9%が続いています。

コロナ禍の状況を逆手にとって、「都市圏からの移住者の受入促進」を図ること、「リモートワーク等の導入促進」を図ることについては、それぞれ 1.2%、5.4%とわずかな回答にとどまりました。

図表 1-6-4 行政に期待すること -複数回答(3つまで)-

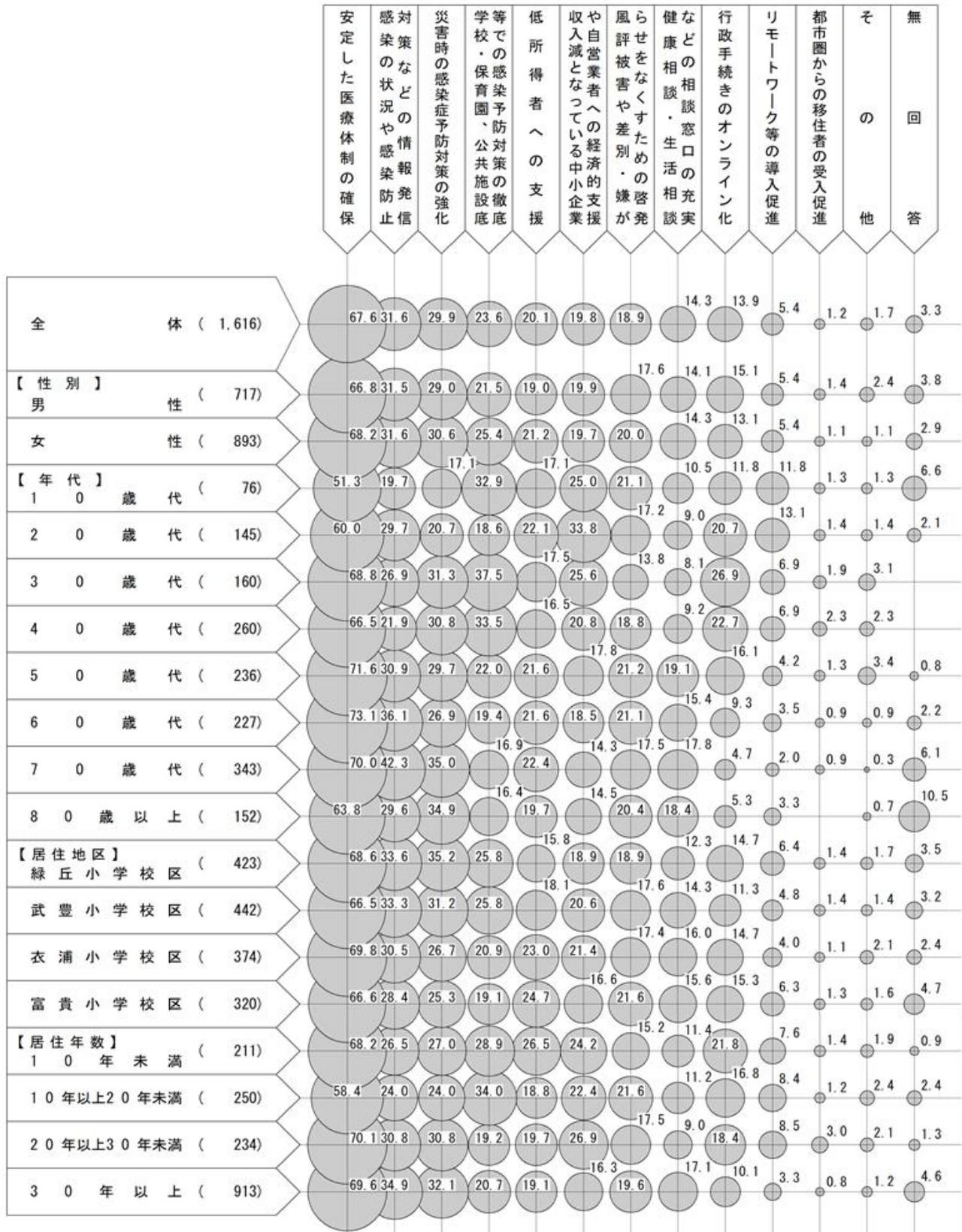


新型コロナウイルス感染症への対策として行政に期待することについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

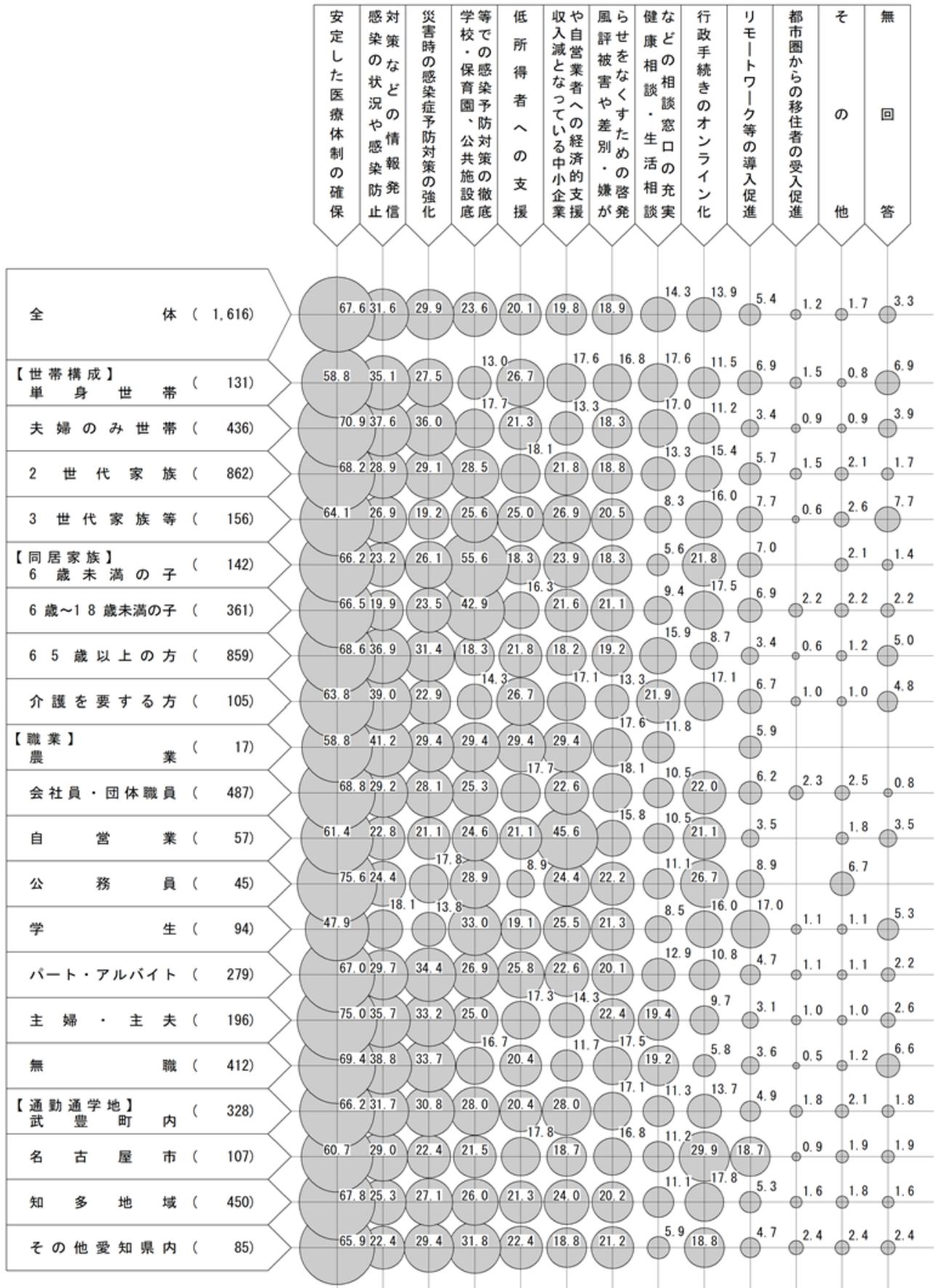
性別	○女性では「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」が25.4%に対して、男性は21.5%です。わずかですが女性が3.9ポイント高くなっています。
年代	○いずれの年代でも「安定した医療体制の確保」が最も高くなっています。 ○10歳代では、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」が32.9%で2番目に高くなっています。 ○20歳代になると、「収入減となっている中小企業や自営業者への経済的支援」が33.8%で2番目に高くなっています。 ○30歳代、40歳代になると、10歳代と同様に、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」がそれぞれ37.5%、33.5%で2番目に高くなっています。 ○また、20歳代、30歳代、40歳代では「行政手続きのオンライン化」がいずれも20%以上となっており、相対的に高くなっています。比較的若い年代では行政手続きのオンライン化が期待されています。 ○50歳代、60歳代、70歳代になると、「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」がそれぞれ30.9%、36.1%、42.3%と順に高くなっており、「安定した医療体制の確保」の次に、こうした情報発信を期待しています。
居住地区	○緑丘小学校区では、「災害時の感染症予防対策の強化」が35.2%で、全体の29.9%を5.3ポイント上回っています。
居住年数	○居住年数が10年未満では、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」の28.9%、「低所得者への支援」の26.5%、「行政手続きのオンライン化」の21.8%が全体よりも5ポイント以上高くなっています。逆に「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」は26.5%で全体よりも5.1ポイント低くなっています。 ○10年以上20年未満でも、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」は34.0%と高く全体の23.6%を10.4ポイントも上回っています。10年未満と同様に、「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」は24.0%で7.6ポイント低くなっています。 ○20年以上30年未満では、「収入減となっている中小企業や自営業者への経済的支援」が26.9%で、全体の19.8%を7.1ポイント上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「低所得者への支援」が26.7%と相対的に高く、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」は13.0%と低くなっています。 ○夫婦のみ世帯では、「災害時の感染症予防対策の強化」が36.0%で相対的に高く、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」は17.7%と低くなっています。 ○3世代家族等では、「収入減となっている中小企業や自営業者への経済的支援」が26.9%となっており、相対的に高くなっています。

同居家族	<p>○6歳未満の子がいる世帯、6歳以上18歳未満の子がいる世帯の方は、「学校・保育園、公共施設等での感染予防対策の徹底」が、それぞれ55.6%、42.9%と全体を大きく上回っています。</p> <p>○介護を要する方では、「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」の39.0%、「低所得者への支援」の26.7%、「健康相談・生活相談などの相談窓口の充実」の21.9%等が相対的に高く、「災害時の感染症予防対策の強化」は22.9%と低くなっています。</p>
職業	<p>○自営業では、「収入減となっている中小企業や自営業者への経済的支援」45.6%と非常に高く、全体の19.8%と比べ25.8ポイントも高くなっています。</p> <p>○会社員・団体職員、自営業、公務員では、「行政手続きのオンライン化」がいずれも20%を超え、他と比べると高くなっています。</p>
通勤 通学地	<p>○武豊町内に通勤通学する者では、「収入減となっている中小企業や自営業者への経済的支援」が28.0%で相対的に高くなっています。</p> <p>○名古屋市内に通勤通学する者では、「行政手続きのオンライン化」が29.9%で、全体の13.9%を16.0ポイントも上回っています。</p>

図表 1-6-5 属性別、行政に期待すること (1/2) -複数回答(3つまで)-



図表 1-6-6 属性別、行政に期待すること (2/2) -複数回答(3つまで)-



1-7 名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺のまちづくり

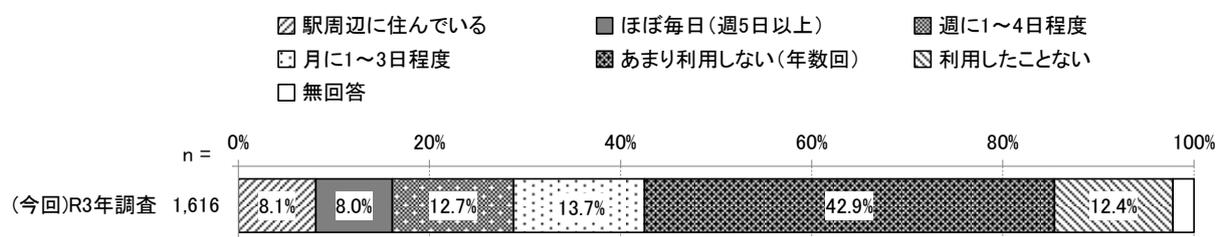
(1) 駅周辺地域への来訪頻度

問 11 あなたは、駅周辺地域（名鉄知多武豊駅・JR武豊駅）への来訪頻度はどの程度ですか。
（1つに○印）

駅周辺地域（名鉄知多武豊駅・JR武豊駅）への来訪頻度については、「あまり利用しない（年数回）」が最も高く 42.9%を占めています。これに「利用したことない」の 12.4%を加えると 55.3%となり、町民の半数以上は駅周辺地域にほとんど足を運んでいないことがわかります。

「駅周辺に住んでいる」は 8.1%、「ほぼ毎日（週5日以上）」は 8.0%、「週に1～4日程度」は 12.7%となっています。週1日以上駅周辺地域に訪れている町民は 28.8%となります。

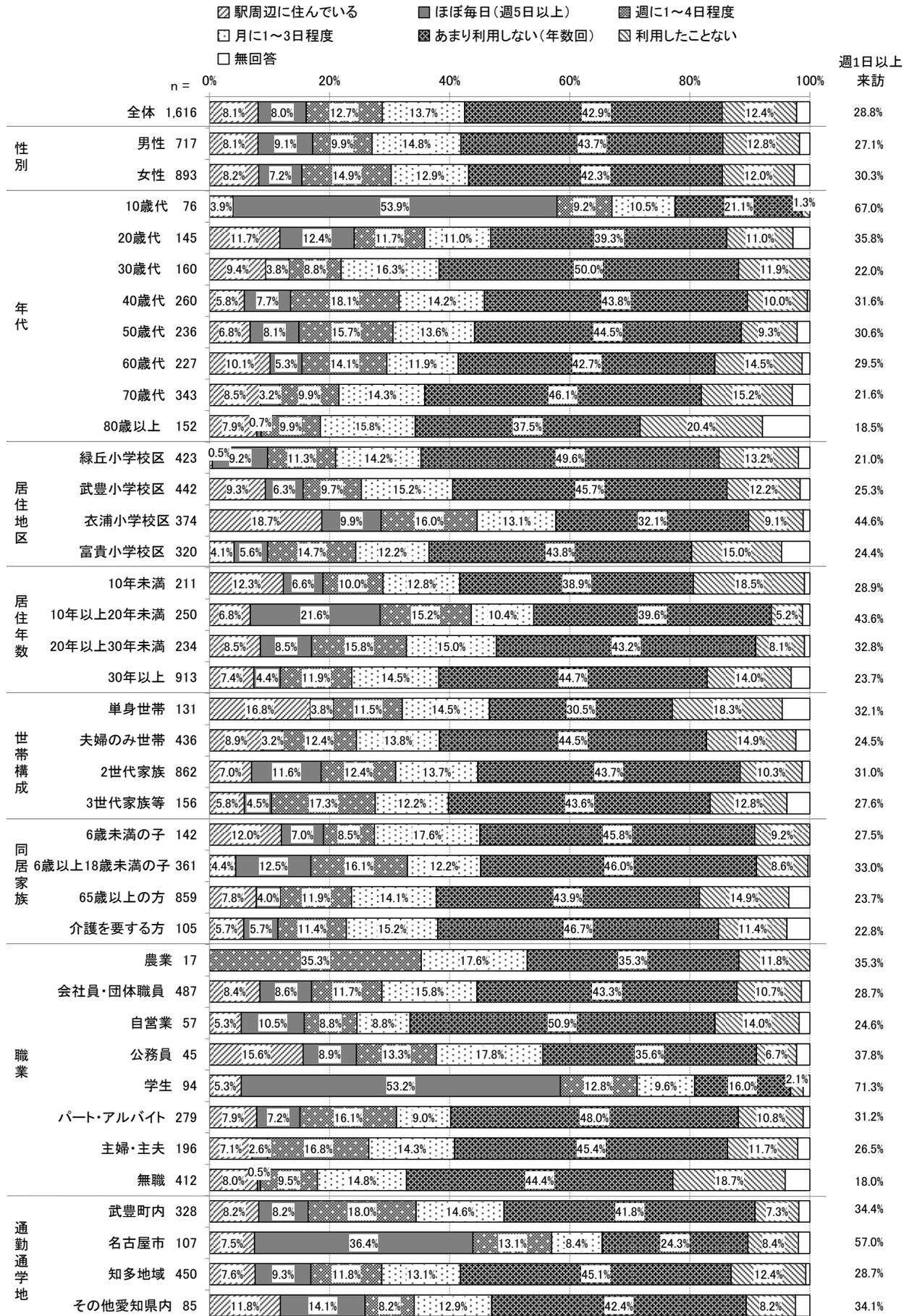
図表 1-7-1 駅周辺地域への来訪頻度



駅周辺地域（名鉄知多武豊駅・JR武豊駅）への来訪頻度について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	<p>○女性では「週に1～4日程度」が14.9%で、男性より5.0ポイント高くなっています。男性では「月に1～3日程度」が14.8%であり、こちらは女性よりもやや高くなっています。週1日以上訪問する割合は、男性が27.1%、女性が30.3%となっています。</p>
年代	<p>○学生が多くを占める10歳代では、「ほぼ毎日（週5日以上）」が53.9%と非常に高くなっています。10歳代では週1日以上駅周辺地域に訪れる割合は67.0%となり、年代別では最も高くなっています。</p> <p>○週1日以上駅周辺地域に訪れる割合をみると、80歳以上が18.5%、30歳代が22.0%で、この2つの年代は低くなっています。</p> <p>○週1日以上駅周辺地域に訪れる割合は、40歳代、50歳代、60歳代ではそれぞれ31.6%、30.6%、29.5%で、概ね3割程度となっています。</p>
居住地区	<p>○名鉄知多武豊駅を含む衣浦小学校区では、「駅周辺に住んでいる」が18.7%と高く、週1日以上駅周辺地域に訪れる割合も44.6%と最も高くなっています。</p> <p>○JR武豊駅を含む武豊小学校区では、「駅周辺に住んでいる」が9.3%とやや高くなっていますが、週1日以上駅周辺地域に訪れる割合は25.3%で全体の28.8%よりも低くなっています。</p>
居住年数	<p>○10年以上20年未満では、「ほぼ毎日（週5日以上）」が21.6%と高く、その結果、週1日以上駅周辺地域に訪れる割合も43.6%と高くなっています。10歳代から20歳代の学生世代が多いことが影響しているものと考えられます。</p> <p>○20年以上30年未満、30年以上と、居住年数が長くなると、駅周辺地域に訪れる頻度は低くなっています。</p>
世帯構成	<p>○単身世帯では、「駅周辺に住んでいる」が16.8%と高く、その結果、週1日以上駅周辺地域に訪れる割合も32.1%とやや高くなっています。</p> <p>○2世代家族では、「ほぼ毎日（週5日以上）」が11.6%とやや高くなっています。</p>
同居家族	<p>○6歳以上18歳未満の子がいる世帯では、「ほぼ毎日（週5日以上）」が12.5%とやや高くなっています。また、「週に1～4日程度」も16.1%とやや高くなっています。</p>
職業	<p>○学生では、「ほぼ毎日（週5日以上）」が53.2%となっており、週1日以上駅周辺地域に訪れる割合は71.3%と非常に高くなっています。</p> <p>○パート・アルバイトや主婦・主夫では、「週に1～4日程度」がそれぞれ、16.1%、16.8%となっており、他と比べて高くなっていることが特徴的です。</p>
通勤通学地	<p>○武豊町内に通勤通学する者では、「あまり利用しない（年数回）」が41.8%、「利用したことない」が7.3%で、半数近くが駅周辺地区にはほとんど訪れていません。訪れている者でも「週に1～4回」の18.0%が最も高くなっています。</p> <p>○名古屋市に通勤通学する者では、「ほぼ毎日（週5日以上）」が36.4%と非常に高くなっています。</p>

図表 1-7-2 属性別、駅周辺地域への来訪頻度



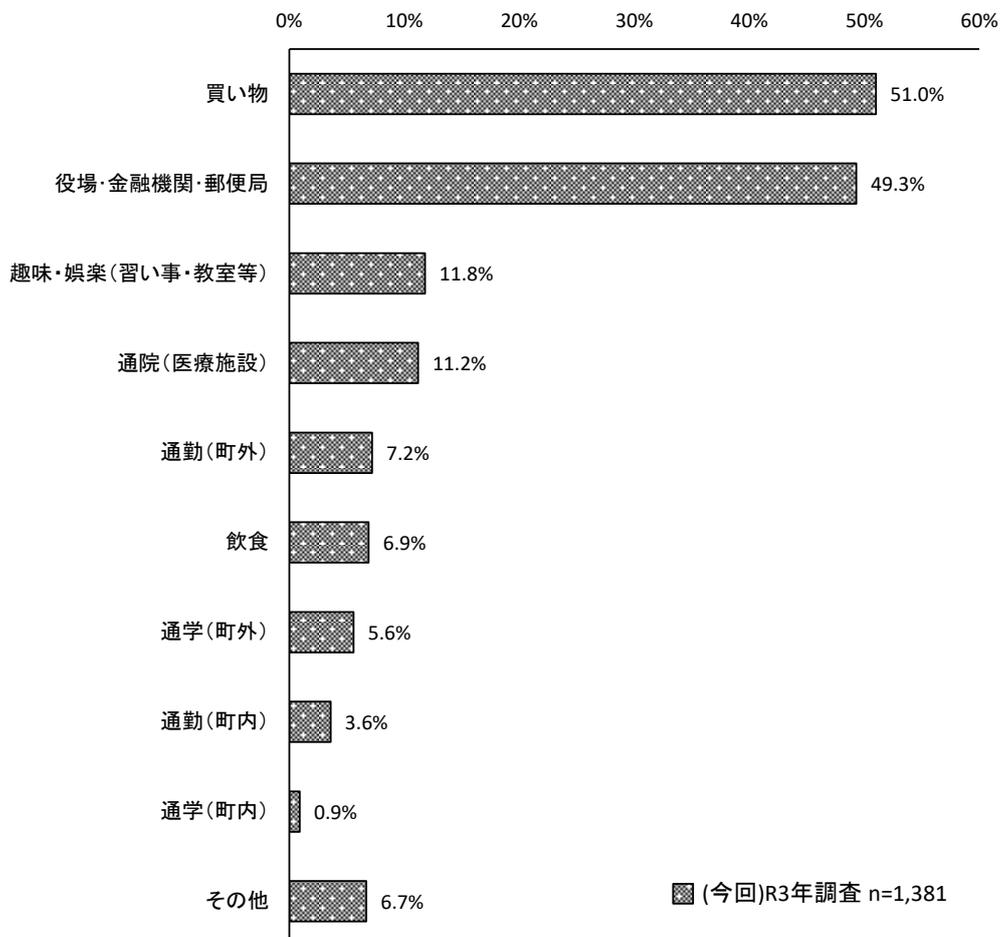
(2) 駅周辺地域への来訪目的

問 11-1 駅周辺地域へ訪れる目的は何ですか？（あてはまるものすべてに○印）

駅周辺地域を「利用したことがない」を除いた 1,381 人を対象に、駅周辺地域へ訪れる目的をたずねたところ、「買い物」が 51.0%、「役場・金融機関・郵便局」が 49.3%で、この 2 つが主たる来訪目的となっています。

「趣味・娯楽（習い事・教室等）」は 11.8%、「通院（医療施設）」は 11.2%で、この 2 つは 1 割台で、その他の「通勤（町外）」「飲食」「通学（町外）」「通勤（町内）」「通学（町内）」は 1 割以下となっています。

図表 1-7-3 駅周辺地域への来訪目的 -複数回答（該当するものすべて）-

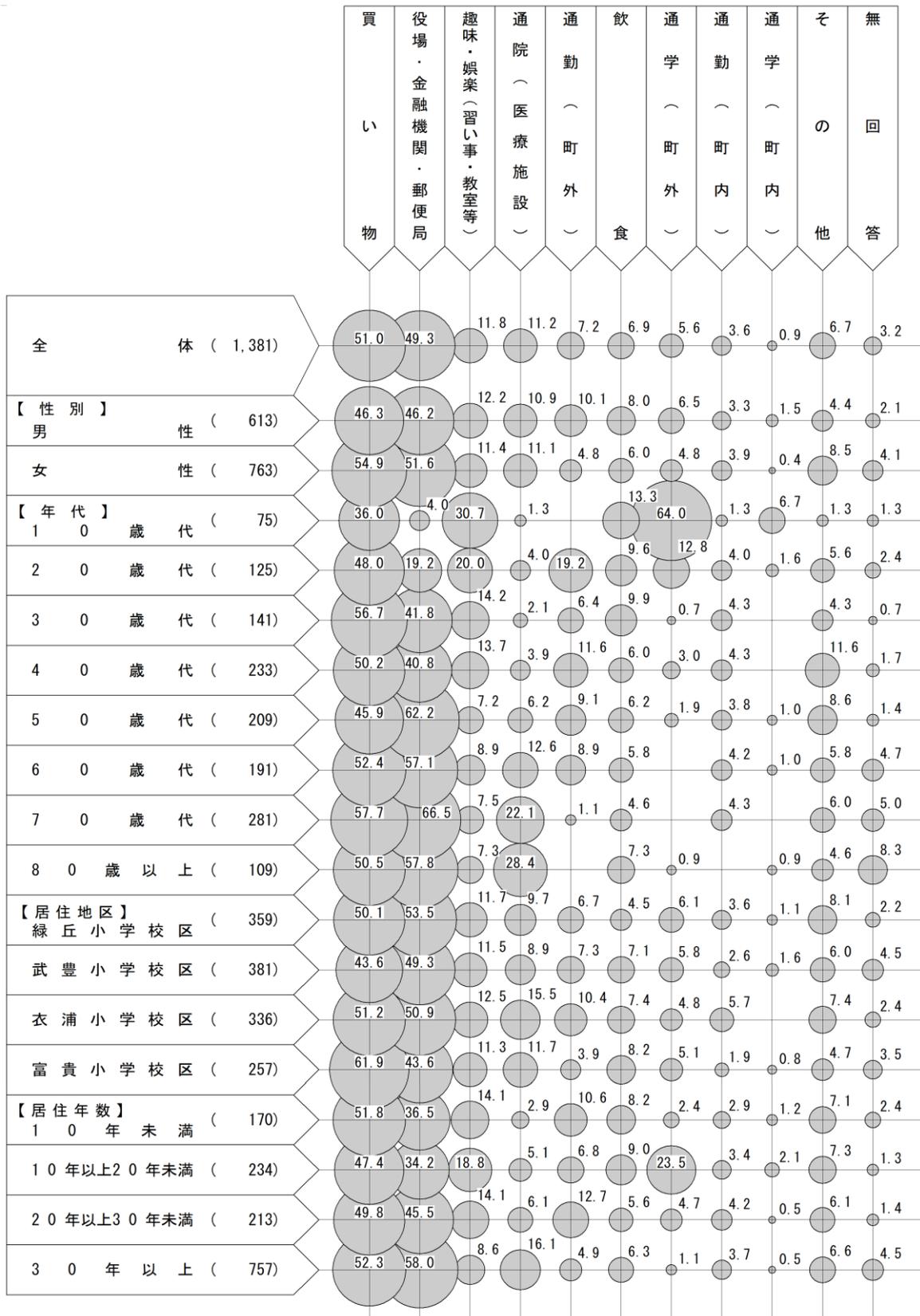


駅周辺地域への来訪目的について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○女性では、「買い物」は54.9%、「役場・金融機関・郵便局」は51.6%で、男性よりそれぞれ8.6ポイント、5.4ポイント高くなっています。
年代	○10歳代では、「通学（町外）」が非常に高く64.0%となっています。また、「趣味・娯楽（習い事・教室等）」が30.7%と相対的に高いことも特徴です。「役場・金融機関・郵便局」を目的に訪れることはごく少数です。 ○20歳代では、全体と比較して、「趣味・娯楽（習い事・教室等）」「通勤（町外）」「通学（町外）」の割合が高くなっています。 ○30歳代以上になると、割合に大小はみられるものの、上位2つは「買い物」と「役場・金融機関・郵便局」となっています。 ○70歳代、80歳以上では、「通院（医療施設）」が20%台と高くなっています。
居住地区	○富貴小学校区では、「買い物」は61.9%と全体の51.0%を10.9ポイント上回っています。逆に、「役場・金融機関・郵便局」は43.6%で全体より5.7ポイント低くなっています。
居住年数	○居住年数10年以上20年未満では、「通学（町外）」が23.5%と非常に高くなっています。10歳代の学生が多く含まれている影響と考えられます。 ○30年以上では「役場・金融機関・郵便局」が58.0%となっており、相対的に高くなっています。
世帯構成	○世帯構成の違いによる顕著な差異はみられませんが、夫婦のみ世帯で「役場・金融機関・郵便局」が60.9%となっており、やや高くなっています。
同居家族	○6歳以上18歳未満の子がいる世帯では、「通学（町外）」が13.1%と相対的にやや高くなっています。 ○65歳以上の方がいる世帯では、「役場・金融機関・郵便局」を目的に訪れている方が57.6%とやや高くなっています。
職業	○学生では、「通学（町外）」が70.3%となっています。学生の7割は通学目的で駅周辺地域を訪れています。 ○自営業、公務員、主婦・主夫では、「役場・金融機関・郵便局」が60%以上と高くなっています。また、農業やパート・アルバイトでは、「買い物」が60%以上と高くなっています。
通勤 通学地	○名古屋市に通勤通学する者では、「通勤（町外）」が43.8%、「通学（町外）」が26.0%となっています。この両者でおおむね7割を占めています。

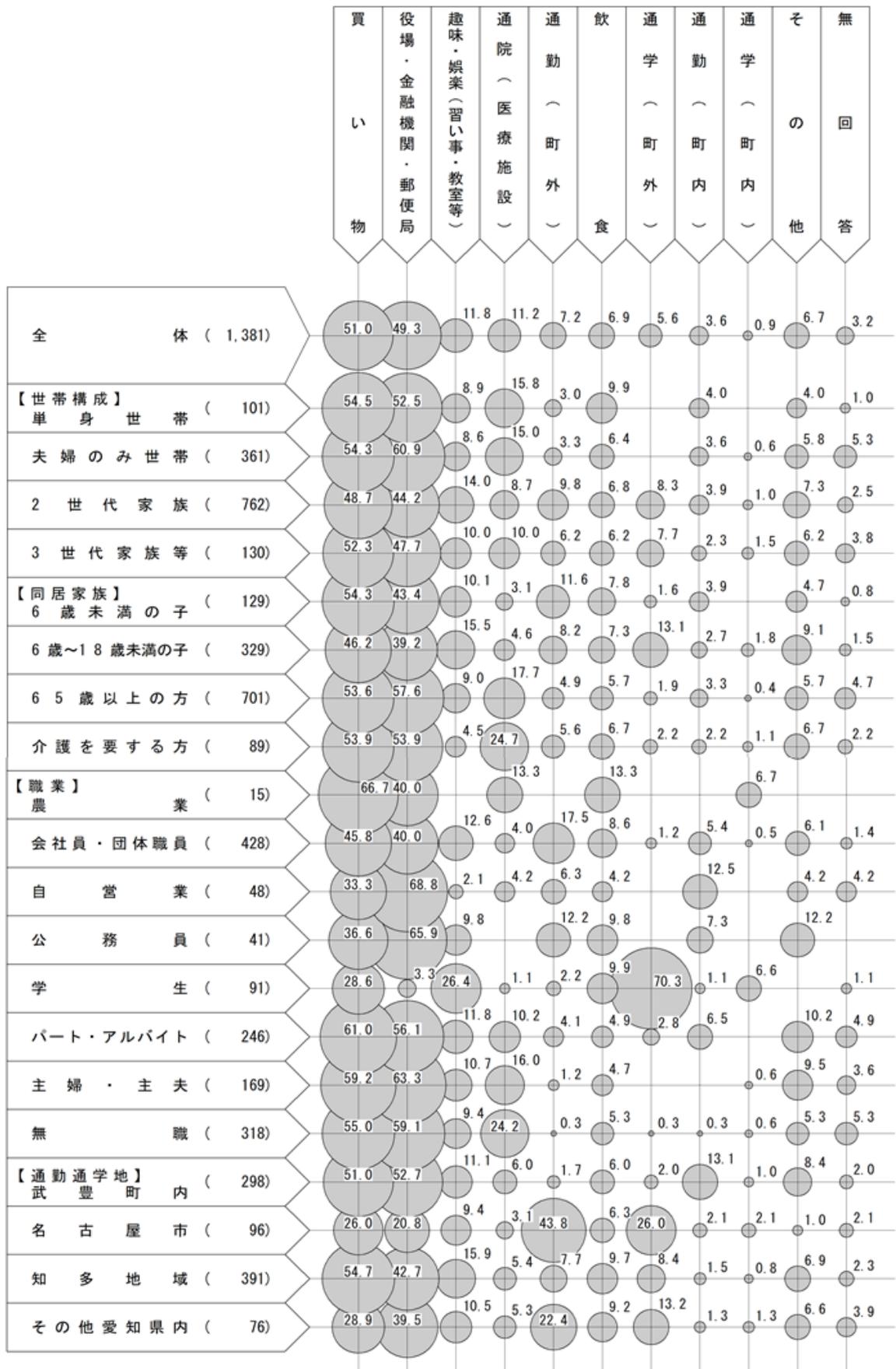
図表 1-7-4 属性別、駅周辺地域への来訪目的 (1/2)

-複数回答(該当するものすべて)-



図表 1-7-4 属性別、駅周辺地域への来訪目的 (2/2)

-複数回答(該当するものすべて)-



(3) 将来の駅周辺の姿

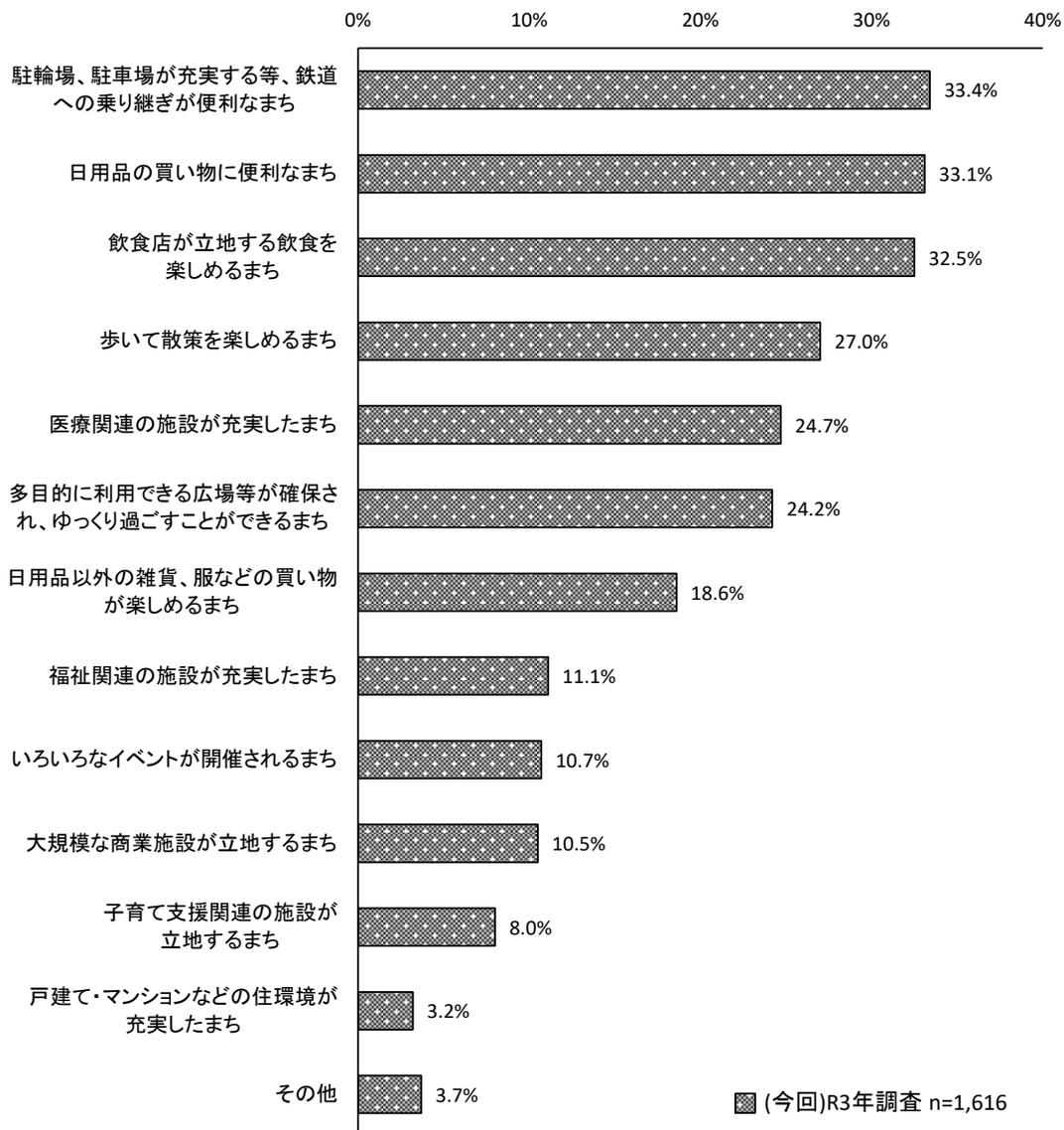
問 12 名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺について、将来どのようなまちになるとよいと思いますか。(3つまでに○印)

名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺の将来については、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」が 33.4%、「日用品の買い物に便利なまち」が 33.1%、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」が 32.5%で、これら3つが30%以上となりました。

続いて、「歩いて散策を楽しめるまち」が 27.0%、「医療関連の施設が充実したまち」が 24.7%、「多目的に利用できる広場等が確保され、ゆっくり過ごすことができるまち」が 24.2%となっており、これらは20%以上となりました。

「日用品以外の雑貨、服などの買い物が楽しめるまち」も 18.6%となっており、全体的には回答が分散する結果となっています。

図表 1-7-5 将来の駅周辺の姿 -複数回答(3つまで) -

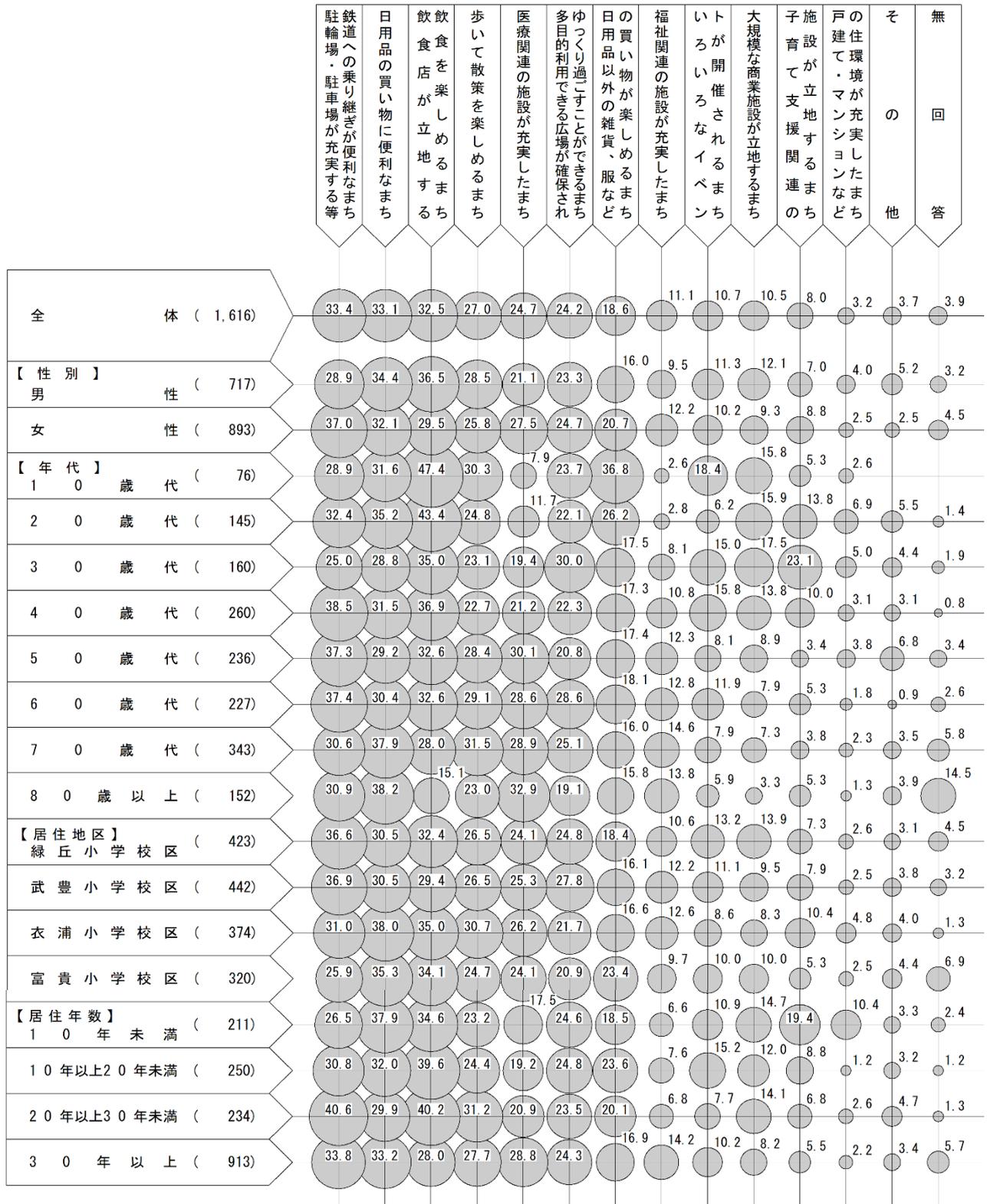


名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺の将来について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

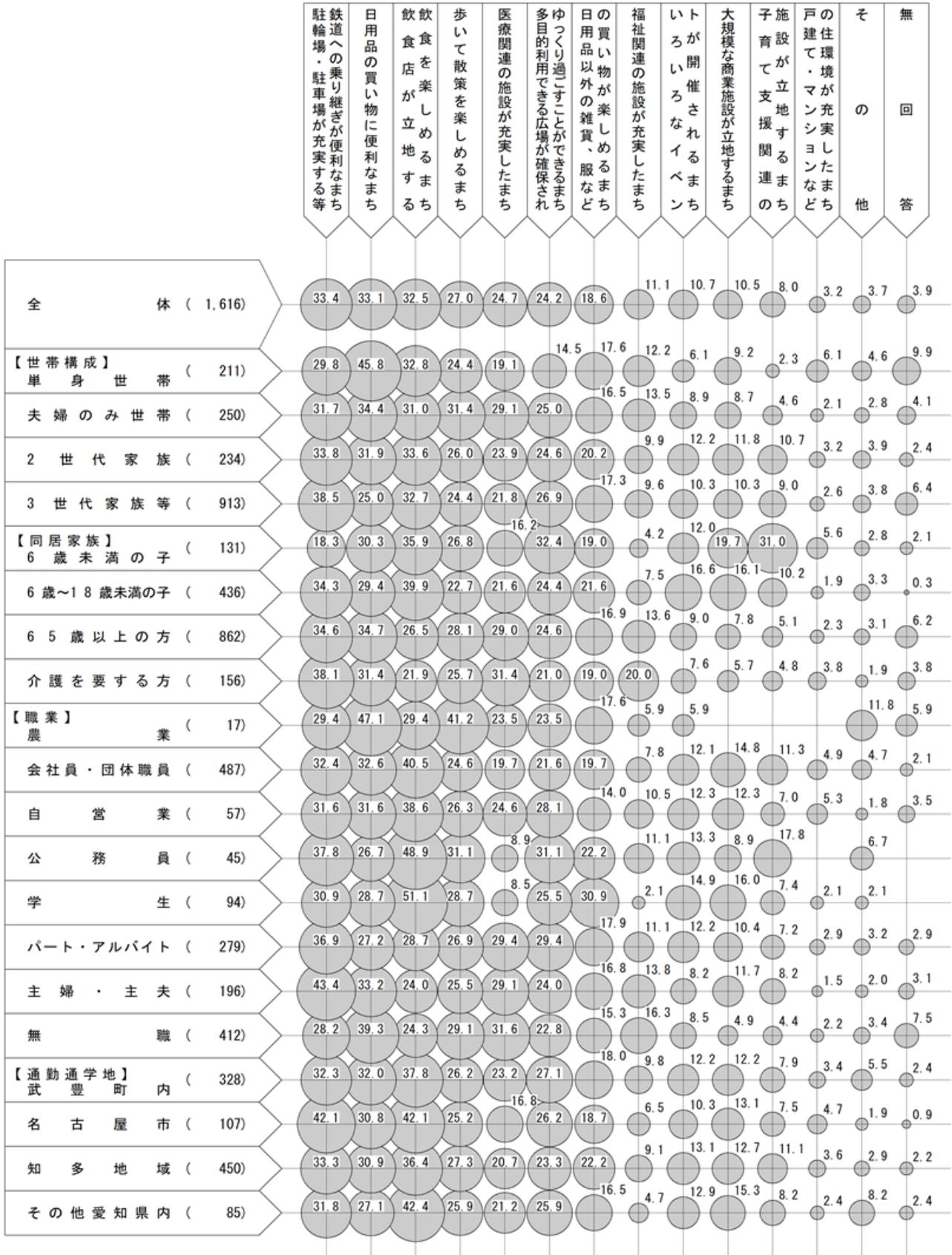
性別	<p>○「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」については、女性の37.0%に対して男性は28.9%で、女性の方が8.1ポイント高くなっています。</p> <p>○「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」では、男性の36.5%に対して女性は29.5%で、男性の方が7.0ポイント高くなっています。</p>
年代	<p>○10歳代、20歳代では、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」が40.0%台となっており非常に高くなっています。また、「日用品以外の雑貨、服などの買い物が楽しめるまち」も相対的に高くなっています。</p> <p>○40歳代では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」が38.5%で、年代間でみると最も高くなっています。50歳代、60歳代でも高い傾向がみられ、中高年世代では鉄道への乗り継ぎをよくすることに期待が大きいことがうかがえます。</p> <p>○50歳代以上になると、「医療関連の施設が充実したまち」が30%前後を示すようになり、高齢になるにつれて、医療関連施設の立地にも期待が寄せられています。</p> <p>○80歳以上では、「日用品の買い物に便利なまち」が38.2%となっており、年代間では最も高くなっています。</p>
居住地区	<p>○衣浦小学校区では、「日用品の買い物に便利なまち」が38.0%でやや高くなっています。</p> <p>○名鉄知多武豊駅・JR武豊駅周辺からは最も離れた富貴小学校区では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」は25.9%と低くなっています。</p>
居住年数	<p>○居住年数が10年以上20年未満、20年以上30年未満では、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」がそれぞれ39.6%、40.2%と相対的に高くなっています。</p> <p>○20年以上30年未満では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」が40.6%で、これも相対的に高くなっています。</p>
世帯構成	<p>○単身世帯では、「日用品の買い物に便利なまち」が45.8%で、他と比べてとりわけ高くなっています。</p> <p>○3世代家族等では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」が38.5%と相対的に高く、「日用品の買い物に便利なまち」は25.0%と低くなっています。</p>
同居家族	<p>○6歳未満の子がいる世帯では、上位3つが、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」の35.9%、「多目的に利用できる広場等が確保され、ゆっくり過ごすことができるまち」の32.4%、「子育て支援関連の施設が立地するまち」の31.0%となっており、他と大きく異なっています。</p> <p>○6歳以上18歳未満の子がいる世帯では、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」が39.9%で、相対的に高くなっています。</p>

職業	<p>○会社員・団体職員、自営業、公務員、学生では、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」が最も高く、特に学生では51.1%と非常に高くなっています。</p> <p>○学生では、「日用品以外の雑貨、服などの買い物が楽しめるまち」が30.9%で、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」に次いで2番目に高い項目となっています。</p> <p>○主婦・主夫では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」が43.4%で、職業別では最も高くなっています。</p>
通勤 通学地	<p>○名古屋市に通勤通学する者では、「駐輪場、駐車場が充実する等、鉄道への乗り継ぎが便利なまち」、「飲食店が立地する飲食を楽しめるまち」がともに42.1%で、相対的に高くなっています。</p>

図表 1-7-6 属性別、将来の駅周辺の姿 (1/2) -複数回答(3つまで)-



図表 1-7-6 属性別、将来の駅周辺の姿 (2/2) -複数回答(3つまで)-



1-8 町民参加・協働のまちづくり

(1) 町政・町民参加

問 13 町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

①～⑤のすべての項目について、1～4の中から今のお気持ちに最も近いもの1つに○印をつけてください。

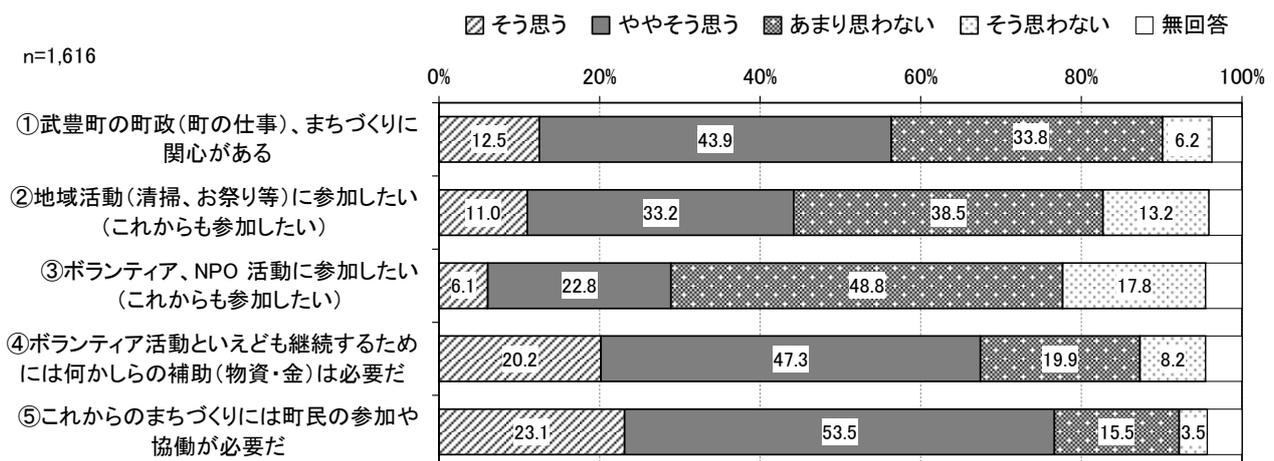
- ①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある
- ②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）
- ③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）
- ④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ
- ⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ

町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた肯定的な回答をした割合をみていくと、「①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある」は56.4%、「②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい」は44.2%、「③ボランティア、NPO 活動に参加したい」は28.9%、「④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ」が67.5%、「⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ」が76.6%となっています。

過去調査と比較したとき、「①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある」と「②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい」は経年的に低下しています。

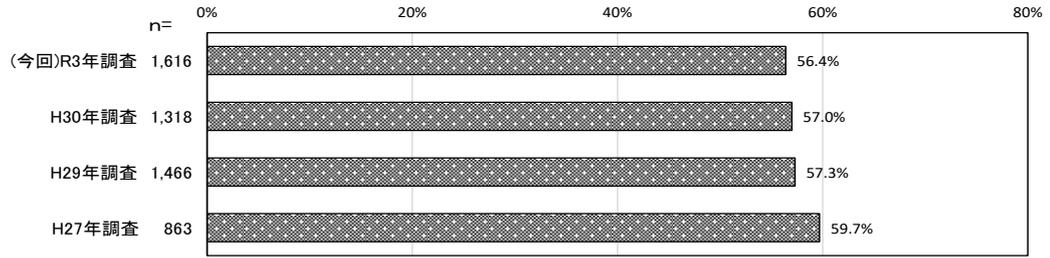
前回調査（平成30年）と比べると、「③ボランティア、NPO 活動に参加したい」と「⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ」についても低下しています。

図表 1-8-1 町政・町民参加

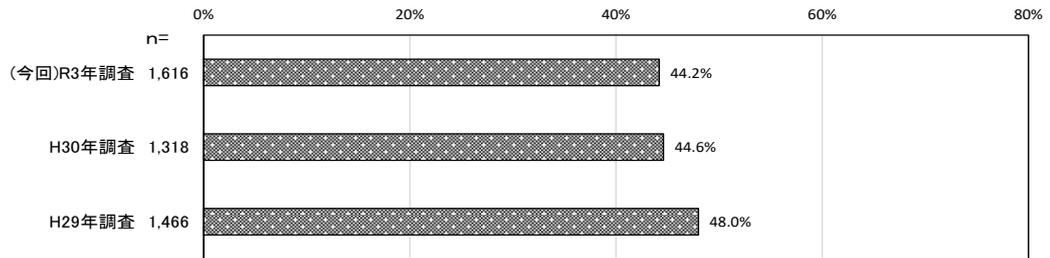


図表 1-8-2 町政・町民参加（過去調査との比較）

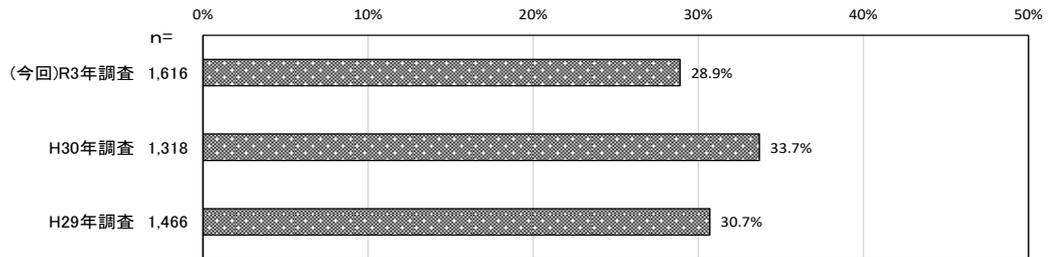
①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある



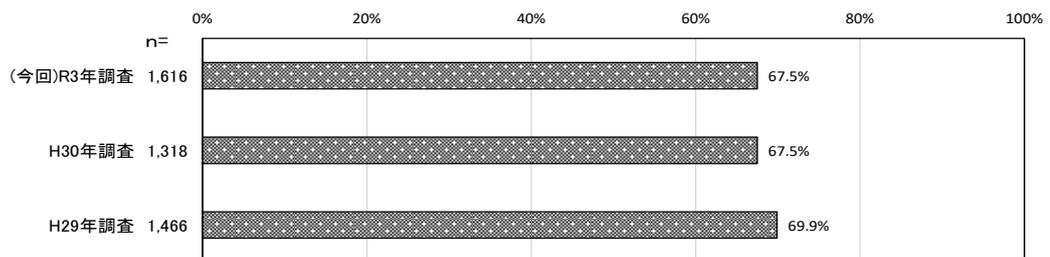
②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）



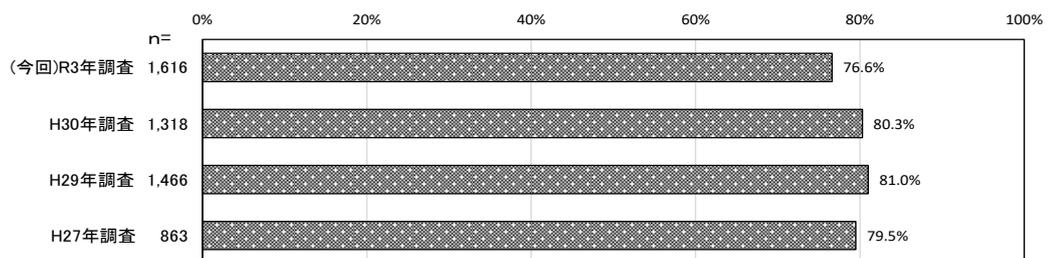
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）



④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ



⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ



※ 値は「そう思う」と「ややそう思う」の合計値。 ②、③、④については、平成 27 年調査は未実施。

(2) 町政への関心

問 13 町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

①～⑤のすべての項目について、1～4の中から今のお気持ちに最も近いもの1つに○印をつけてください。

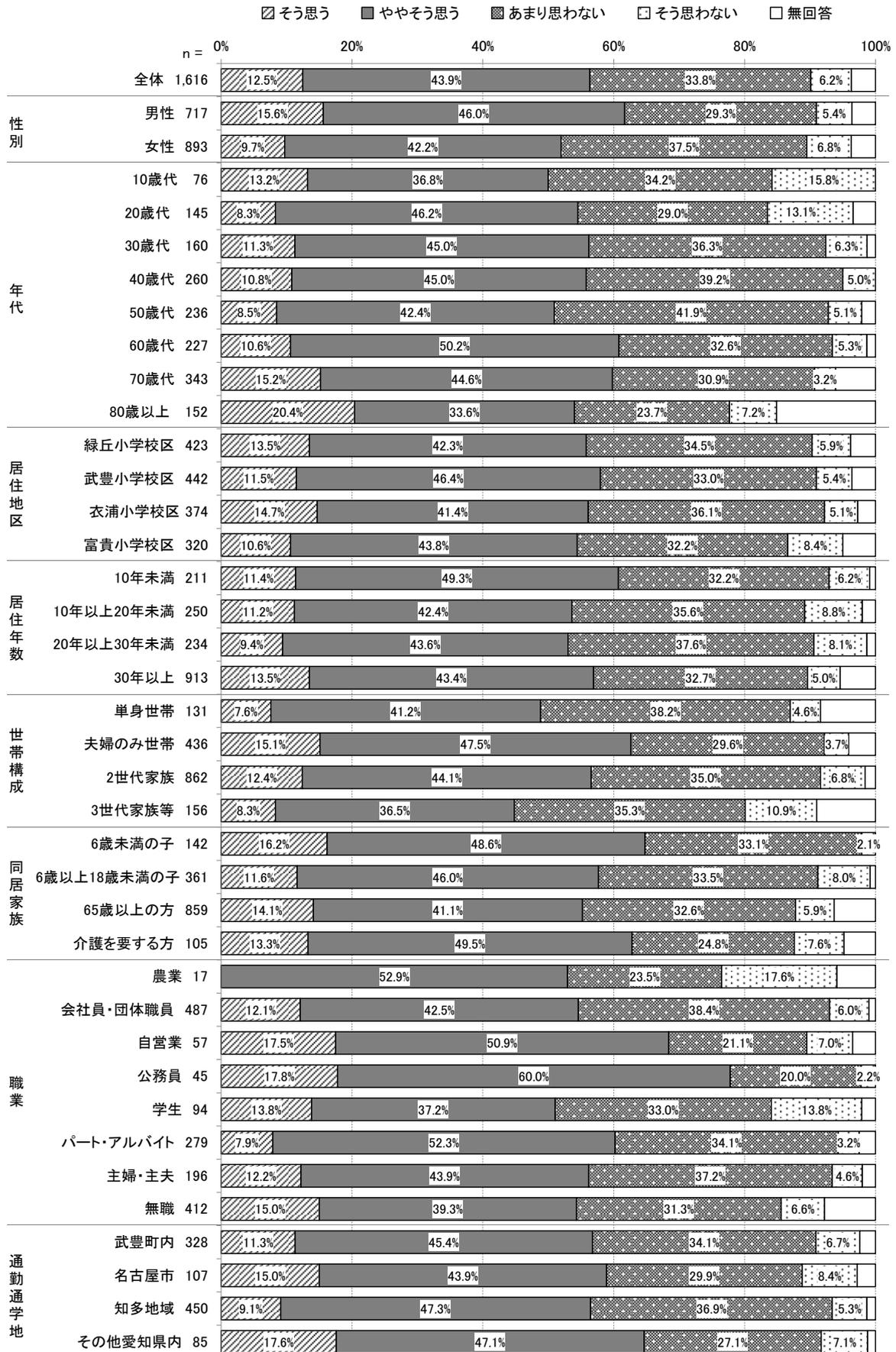
①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある

『①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある』かどうかについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合は男性の61.6%に対して女性は51.9%で男性の方が関心は高く、「そう思う」では5.9ポイント高くなっています。
年代	○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合をみたとき、60歳代で60.8%、70歳代で59.8%となっており、この世代は全体の56.4%を上回っています。 ○最も低いのは10歳代の50.0%です。60歳代、70歳代といった高い年齢層が町政、まちづくりへの関心が高いという傾向が顕著に表れています。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○居住年数が10年未満では「ややそう思う」が49.3%と相対的に高く、「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合は60.7%と6割を上回っています。
世帯構成	○夫婦のみ世帯で、「そう思う」が15.1%、「ややそう思う」が47.5%となっており、単身世帯、2世代家族、3世代家族等と比べいずれも高くなっています。
同居家族	○6歳未満の子がいる世帯では、「そう思う」が16.2%とかなり高くなっています。「ややそう思う」に関しても48.6%と高く、両者をあわせた割合は64.8%となります。 ○介護を要する方がいる世帯は、「そう思う」が13.3%、「ややそう思う」が49.5%で、両者をあわせた割合は62.8%となります。
職業	○公務員と自営業では「そう思う」がそれぞれ17.8%、17.5%で非常に高くなっています。「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合をみても、それぞれ77.8%、68.4%で、町政、まちづくりへの高い関心を示しています。
通勤 通学地	○その他愛知県や名古屋市に通勤通学する者では、「そう思う」がそれぞれ17.6%、15.0%で、全体の12.5%よりも高くなっています。

図表 1-8-3 属性別、町政・町民参加

①武豊町の町政（町の仕事）、まちづくりに関心がある



(3) 地域活動（清掃、お祭り等）への参加意向

問 13 町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

①～⑤のすべての項目について、1～4の中から今のお気持ちに最も近いもの1つに○印をつけてください。

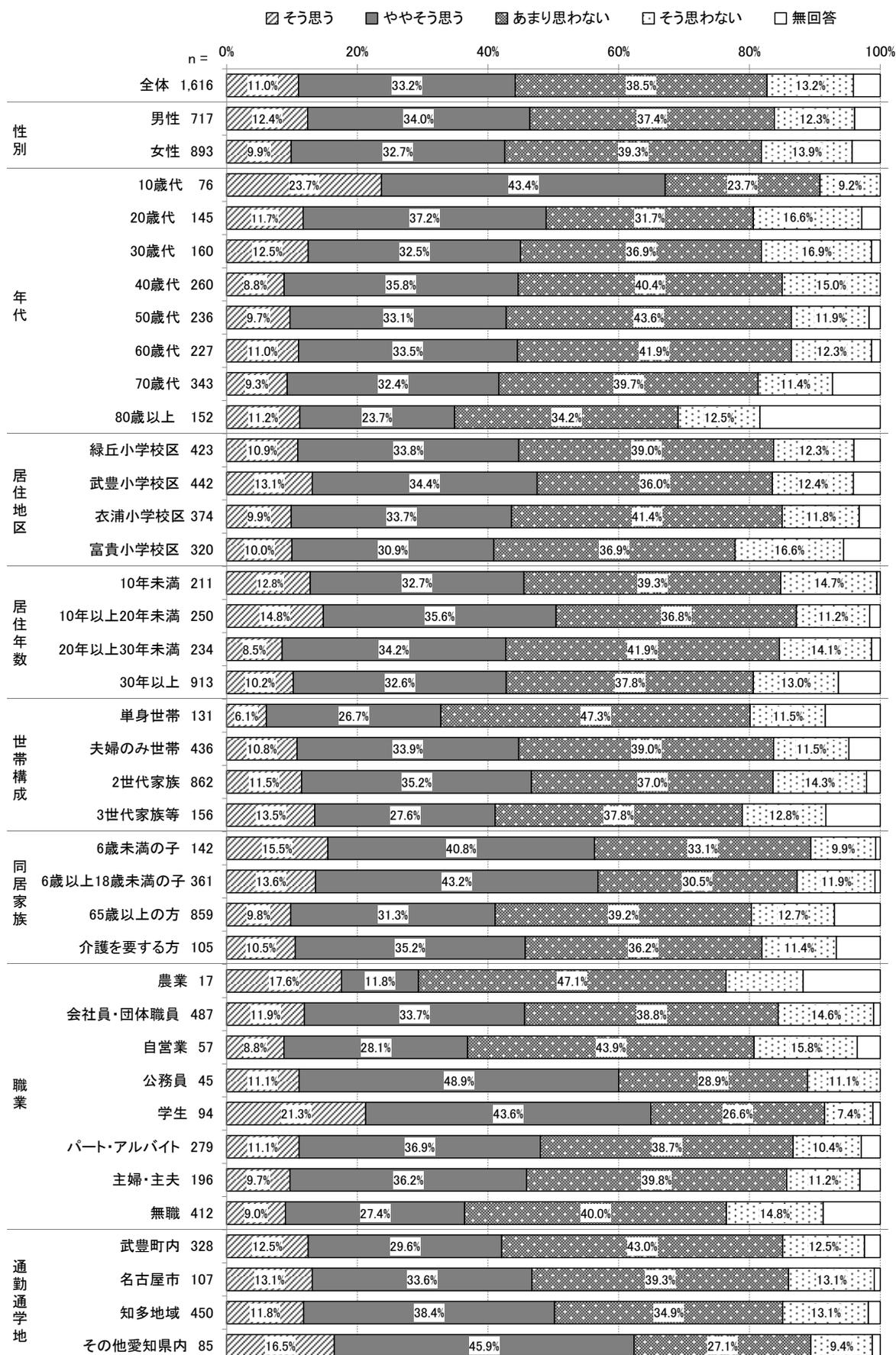
②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）

『②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）』かどうかについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合は男性の46.4%に対して女性は42.6%です。わずかですが男性の方が3.8ポイント高くなっています。
年代	○10歳代では、「そう思う」が23.7%で他の世代と比べ特に高くなっています。「ややそう思う」も43.4%と高く、両者をあわせた割合は67.1%となります。3人に2人は地域活動への参加意向を示していることとなります。 ○20歳代では、「ややそう思う」が37.2%で相対的に高くなっており、「そう思う」とあわせた割合は48.9%となっています。 ○10歳代や20歳代といった若い世代において、地域活動への参加意向が高くなっています。
居住地区	○武豊小学校区で「そう思う」が13.1%、「ややそう思う」が34.4%となっており、他の小学校区と比べ高くなっています。
居住年数	○10年以上20年未満で、「そう思う」が14.8%、「ややそう思う」が35.6%で、他と比べ高くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「そう思う」は6.1%と特に低く、「ややそう思う」も26.7%とかなり低くなっています。単身世帯では地域活動への参加意向は非常に低くなっています。
同居家族	○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合をみたとき、同居家族に6歳未満の子がいる世帯、6歳以上18歳未満の子がいる世帯では、それぞれ56.3%、56.8%となっており、非常に高くなっています。子どものいる世帯では地域活動への参加意向が高いという傾向が顕著です。
職業	○学生は、「そう思う」が21.3%で他と比べ特に高くなっています。「ややそう思う」も43.6%と高く、両者をあわせた割合は64.9%となります。 ○次いで高いのは公務員で、「そう思う」は11.1%で全体と大きく変わりませんが、「ややそう思う」は48.9%と高く、両者をあわせた割合は60.0%となっています。
通勤 通学地	○その他愛知県に通勤通学する者は、「そう思う」「ややそう思う」の計が62.4%で、他と比べて特に高くなっています。 ○逆に武豊町内に通勤通学する者では、「そう思う」「ややそう思う」の計は42.1%で、他と比べて最も低くなっています。

図表 1-8-4 属性別、町政・町民参加

②地域活動（清掃、お祭り等）に参加したい（これからも参加したい）



(4) ボランティア、NPOへの参加意向

問 13 町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

①～⑤のすべての項目について、1～4の中から今のお気持ちに最も近いもの1つに○印をつけてください。

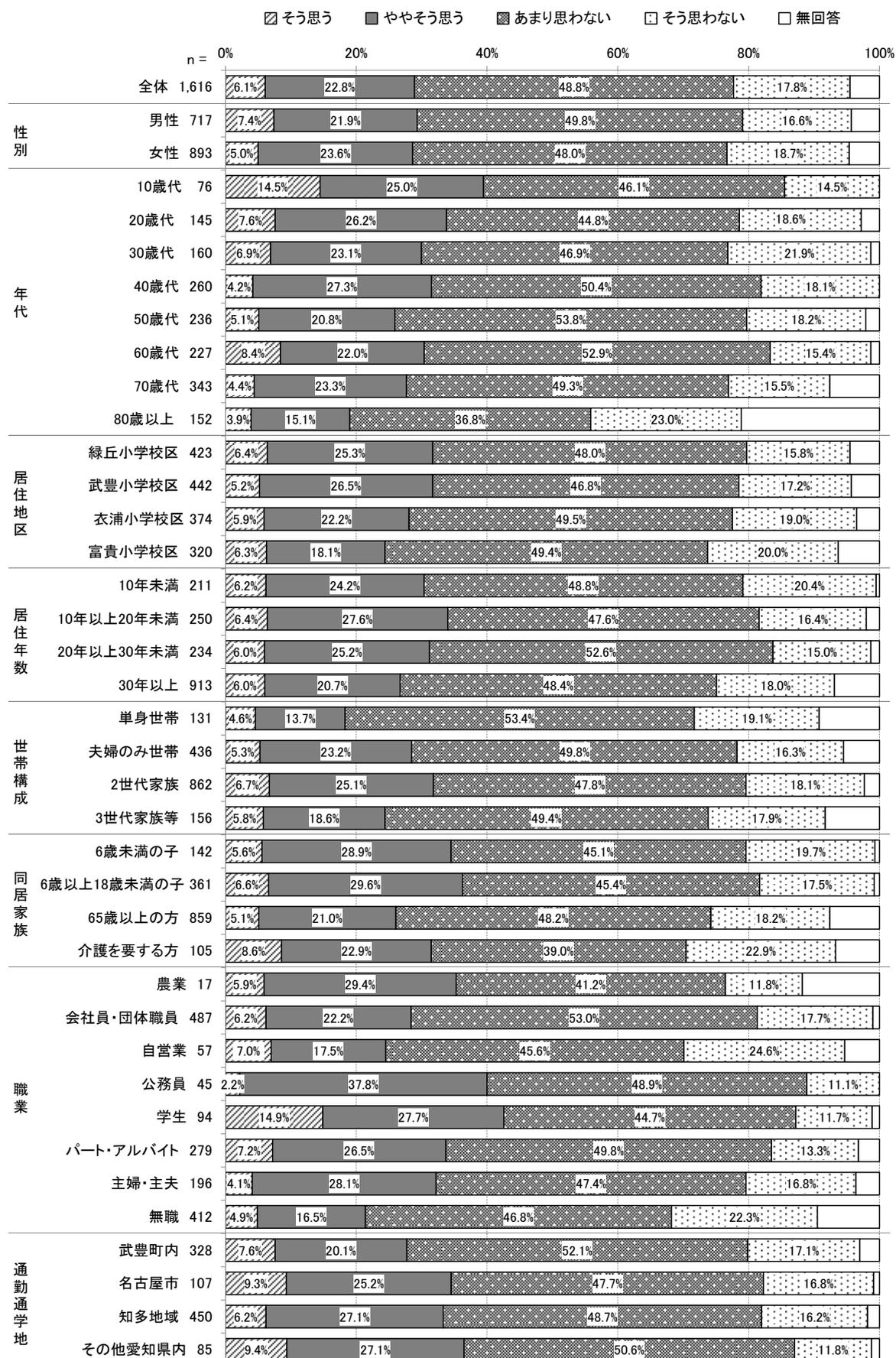
③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）

『③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）』かどうかについて、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合をみると、男性は 29.3%、女性は 28.6%で、男女間で顕著な差異はみられません。
年代	○10 歳代では「そう思う」が 14.5%で、他の世代と比べ特に高くなっています。 ○「そう思う」と「ややそう思う」をあわせた割合をみると、10 歳代では 39.5%、20 歳代では 33.8%と相対的に高くなっていますが、50 歳代は 25.9%、70 歳代は 27.7%と低くなっています。10 歳代や 20 歳代といった若い世代においてボランティアや NPO 活動への参加意向が強く表れています。
居住地区	○富貴小学校区では、「そう思う」が 6.3%、「ややそう思う」が 18.1%で、両者をあわせた割合は 24.4%で、相対的に低くなっています。
居住年数	○「ややそう思う」は居住年数 10 年以上 20 年未満で 27.6%となっており、やや高い傾向がみられます。
世帯構成	○単身世帯では、「そう思う」は 4.6%と低く、「ややそう思う」も 13.7%と特に低くなっています。単身世帯ではボランティアや NPO 活動への参加意向は非常に低くなっています。
同居家族	○同居家族に 6 歳未満の子がいる世帯、6 歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では、「ややそう思う」がそれぞれ 28.9%、29.6%で、相対的に高くなっています。
職業	○学生では、「そう思う」が 14.9%で全体の 6.1%を 8.8 ポイントも上回り高くなっています。これに「ややそう思う」の 27.7%を加えると 42.6%となり、4 割を超える高い割合を示しています。学生の参加意向が最も高くなっています。 ○公務員では、「そう思う」は 2.2%と低いものの、「ややそう思う」は 37.8%と高く、両者の計は 40.0%となります。公務員も 4 割という高い割合を示しています。
通勤 通学地	○武豊町内に通勤通学する者では、「そう思う」が 7.6%、「ややそう思う」が 20.1%で、両者をあわせた割合は 27.7%で、相対的に低くなっています。

図表 1-8-5 属性別、町政・町民参加

③ボランティア、NPO 活動に参加したい（これからも参加したい）



(5) ボランティアへの補助（物資・金）の必要性

問 13 町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

①～⑤のすべての項目について、1～4の中から今のお気持ちに最も近いもの1つに○印をつけてください。

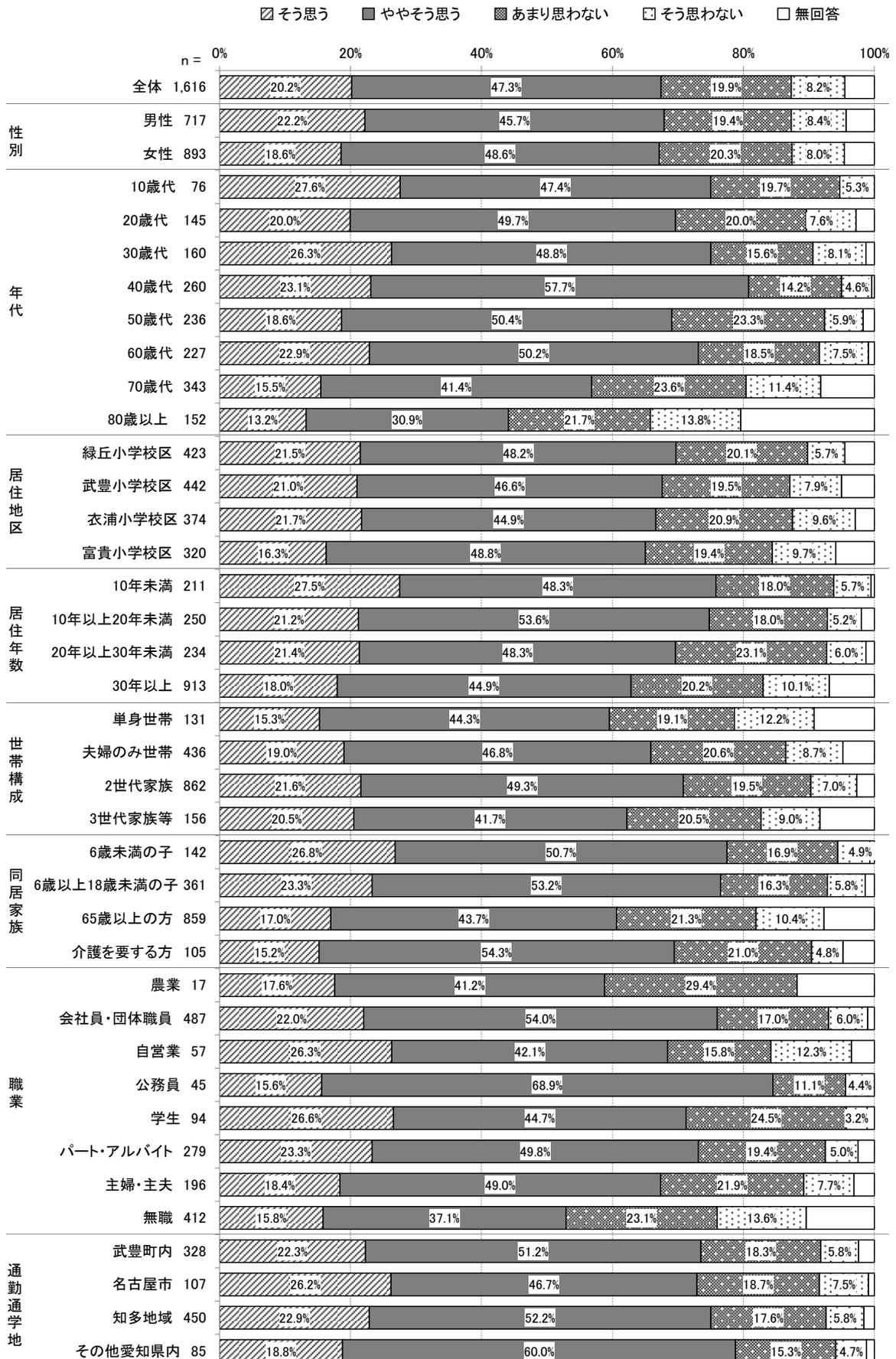
④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ

『④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ』に対する考え方について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」は男性の22.2%に対して女性は18.6%で、わずかですが男性の方が3.6ポイント高くなっています。
年代	○「そう思う」は年代によりばらつきがみられます。10歳代で27.6%、30歳代で26.3%となっており、この2つの年代は全体の20.2%を6ポイント以上上回っています。 ○「そう思う」と「ややそう思う」の合計では、40歳代が最も高く80.8%となっています。次いで30歳代の75.1%、10歳代の75.0%が高くなっています。
居住地区	○富貴小学校区で「そう思う」が16.3%とやや低くなっています。
居住年数	○居住年数10年未満では、「そう思う」が27.5%と相対的に高く、「ややそう思う」の48.3%を加えると75.8%となっており、居住年数の区分の中では最も高くなっています。次いで高いのは10年以上20年未満の74.8%となっています。
世帯構成	○単身世帯では、「そう思う」が15.3%、「ややそう思う」が44.3%で、両者を合わせた割合は59.6%で他と比べ最も低くなっています。
同居家族	○6歳未満の子がいる世帯では、「そう思う」が26.8%と高く、6歳以上18歳未満の子がいる世帯では「ややそう思う」が53.2%と高くなっています。 ○「そう思う」と「ややそう思う」の合計では、6歳未満の子がいる世帯は77.5%、6歳以上18歳未満の子がいる世帯は76.5%となり、ともに高い割合を示しています。
職業	○公務員では、「ややそう思う」が68.9%と非常に高くなっており、「そう思う」の15.6%を加えると84.5%と高水準になっています。 ○次いで「そう思う」と「ややそう思う」の合計が高いのは会社員・団体職員で76.0%です。給与所得者である公務員や会社員・団体職員の多くが何かしらの補助が必要と考えています。
通勤通学地	○名古屋市に通勤通学する者では、「そう思う」が26.2%とやや高くなっています。 ○その他の愛知県に通勤通学する者では、「ややそう思う」が60.0%と非常に高くなっています。

図表 1-8-6 属性別、町政・町民参加

④ボランティア活動といえども継続するためには何かしらの補助（物資・金）は必要だ



(6) 町民の参加や協働の必要性

問 13 町政（武豊町のまちづくり）や町民参加について、どのようにお考えですか。

①～⑤のすべての項目について、1～4の中から今のお気持ちに最も近いもの1つに○印をつけてください。

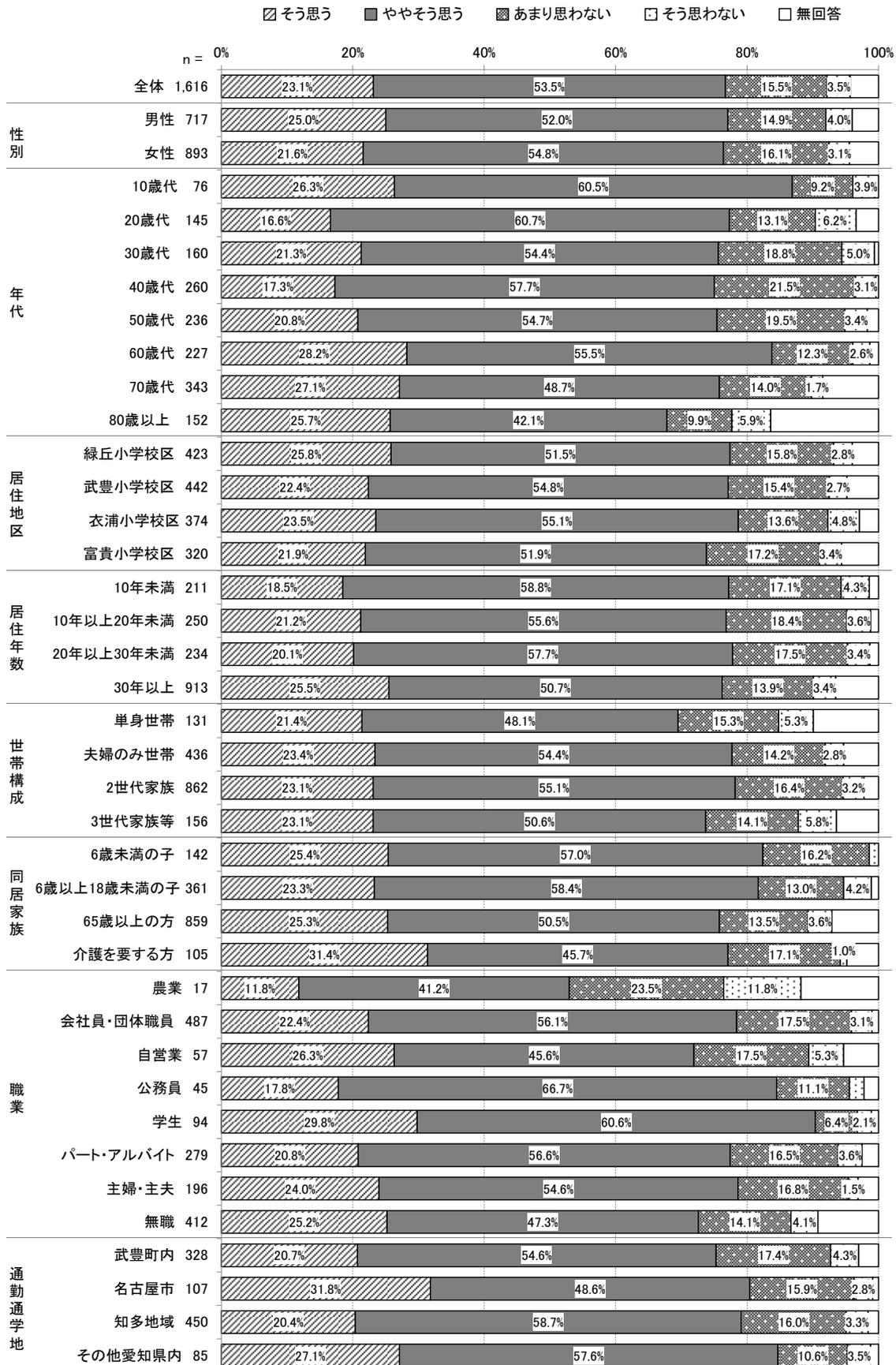
⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ

『⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ』に対する考え方について、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「そう思う」と「ややそう思う」の合計は男性 77.0%、女性 76.4%で大きな差異はありませんが、「そう思う」は男性 25.0%に対して女性は 21.6%で、わずかに男性の方が高くなっています。
年代	○10 歳代では「そう思う」の 26.3%、「ややそう思う」の 60.5%がともに全体より高く、両者をあわせると 86.8%となり非常に高い割合を示しています。10 歳代が最も町民の参加や協働が必要であると考えています。 ○60 歳代では「そう思う」が 28.2%で、年代別では最も高くなっていることも特徴です。60 歳代の「そう思う」と「ややそう思う」の合計は 83.7%で、10 歳代に次いで高くなっています。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○居住年数が 10 年未満では、「ややそう思う」が 58.8%となっています。全体の 53.5%を 5.3 ポイント上回っています。
世帯構成	○単身世帯では、「そう思う」が 21.4%、「ややそう思う」が 48.1%で、ともに低くなっています。
同居家族	○「そう思う」と「ややそう思う」の合計は、6 歳未満の子がいる世帯では 82.4%、6 歳以上 18 歳未満の子がいる世帯では 81.7%でともに高い割合を示しています。
職業	○学生では、「そう思う」が 29.8%、「ややそう思う」が 60.6%でともに高く、両者の合計では 90.4%となっています。学生の 9 割は町民の参加や協働が必要であると考えています。 ○次いで、高いのは公務員で、「そう思う」は 17.8%とやや低いものの、「ややそう思う」は 66.7%と高く、両者の合計は 84.5%となっています。
通勤 通学地	○その他愛知県内に通勤通学する者では、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が 84.7%と非常に高くなっています。

図表 1-8-7 属性別、町政・町民参加

⑤これからのまちづくりには町民の参加や協働が必要だ



1-9 SDGs

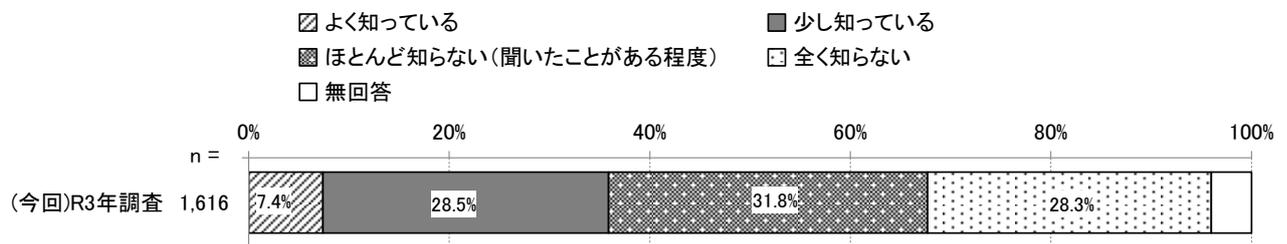
(1) SDGsの認知度

問14 エスディージーズ SDGs（持続可能な開発目標）についてどの程度ご存じですか。（1つに○印）

エスディージーズ SDGs（持続可能な開発目標）については、「よく知っている」は7.4%となっており、1割以下でした。「少し知っている」は28.5%で、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた認知度は35.9%となっています。現時点では4割に達していない状況にあります。

「ほとんど知らない（聞いたことがある程度）」は31.8%、「全く知らない」は28.3%となっています。

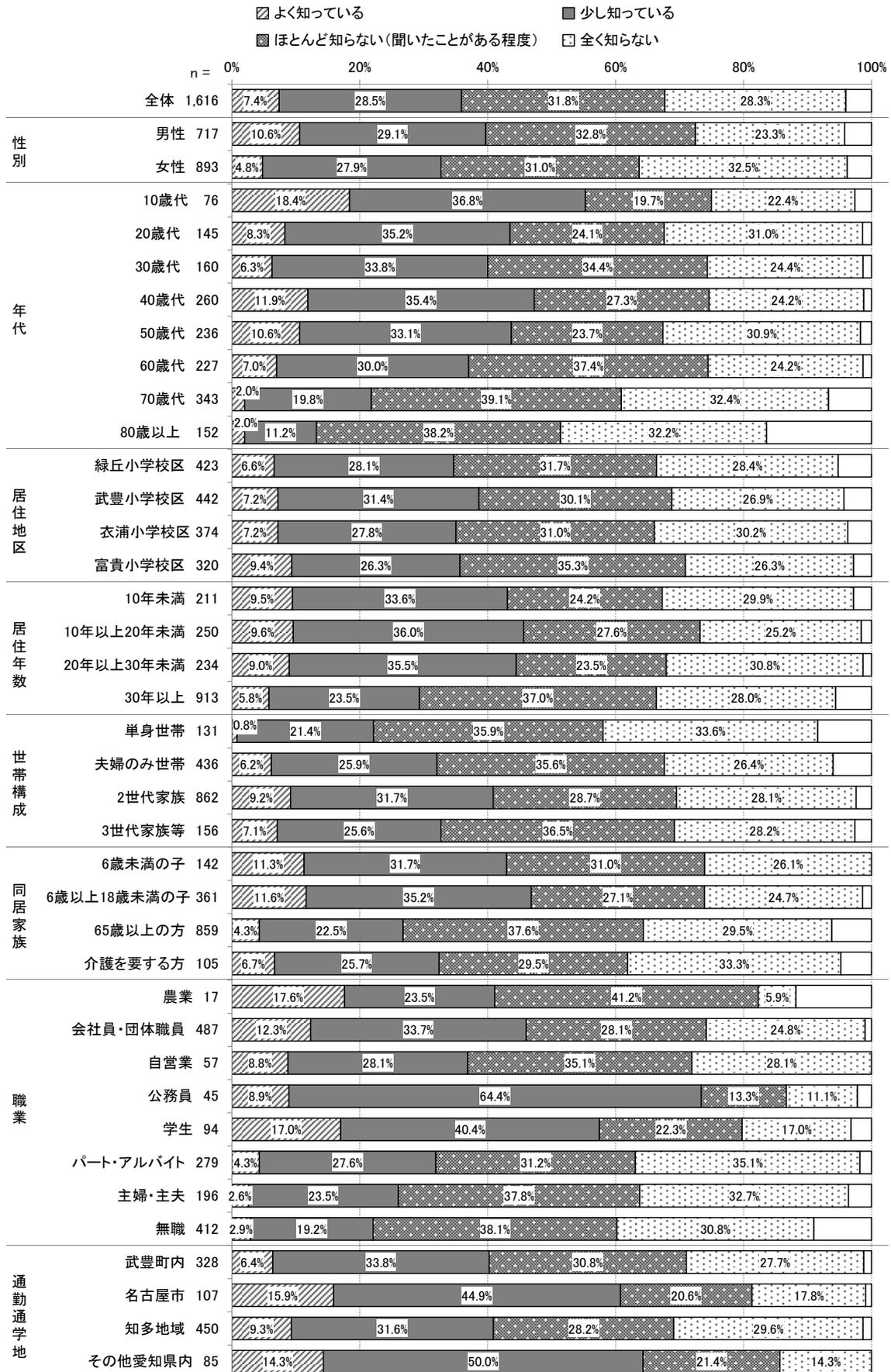
図表 1-9-1 SDGs 認知度



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合をみていくと、男性は39.7%、女性は32.7%です。男性の方が7.0ポイント上回っています。
年代	○同様に、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合をみていくと、10歳代は55.2%で半数を超えています。 ○次いで、40歳代の47.3%、50歳代の43.7%、20歳代の43.5%、30歳代の40.1%と続いています。 ○70歳代では21.8%、80歳以上では13.2%にとどまっており、70歳以上の高齢世代では認知度が低くなっています。
居住地区	○居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○居住年数30年以上では、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合は29.3%と低くなっています。
世帯構成	○単身世帯では、「よく知っている」はわずかに0.8%で、「少し知っている」の21.4%をあわせても22.2%にとどまります。
同居家族	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合は、6歳未満の子がいる世帯、6歳以上18歳未満の子がいる世帯では、それぞれ43.0%、46.8%で、他と比べ高くなっています。子どもがいる世帯の方が認知度は高くなっています。
職業	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合を高い順にみていくと、公務員の73.3%、学生の57.4%、会社員・団体職員の46.0%となっています。
通勤 通学地	○「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた割合は、名古屋市に通勤通学する者60.8%、その他の愛知県内に通勤通学する者が64.3%です。

図表 1-9-2 属性別、SDGs 認知度



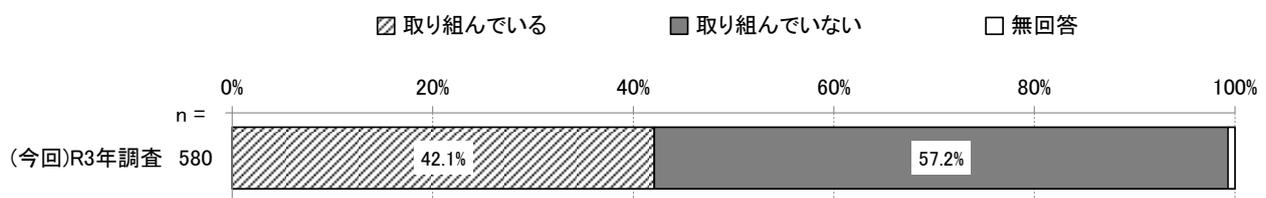
(2) SDGsに貢献する行動

問14-1 ^{エスディーゼース} SDGs（持続可能な開発目標）に貢献する行動に取り組んでいますか。
（1つに○印）

^{エスディーゼース} SDGsについて、「よく知っている」または「少し知っている」と回答した580人を対象に、SDGsに貢献する行動に取り組んでいるかをたずねたところ、「取り組んでいる」は42.1%、「取り組んでいない」は57.2%でした。

SDGsのことを知っていても、SDGsに貢献する行動に取り組んでいる者はまだ半数以下となっています。

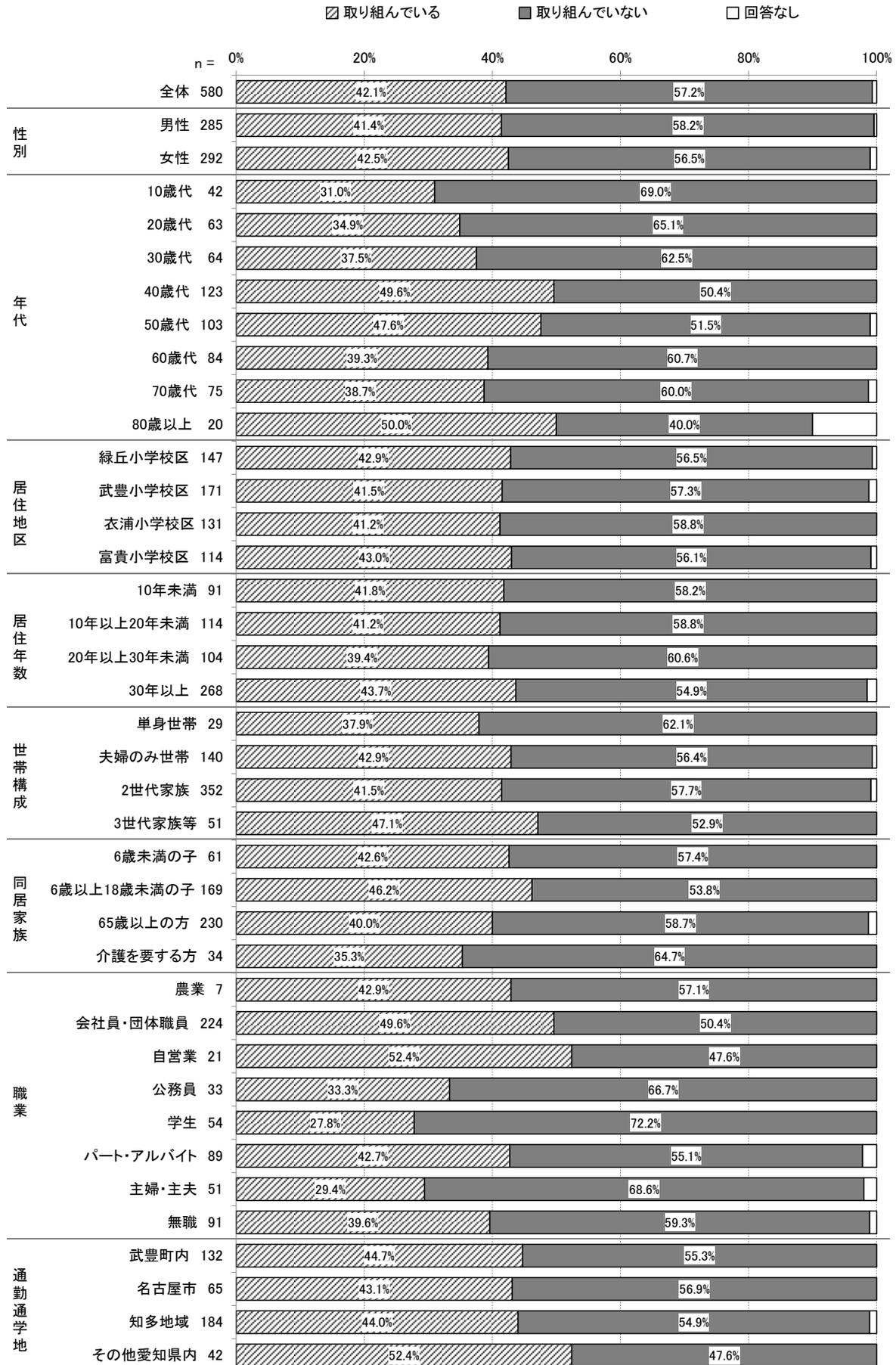
図表 1-9-3 SDGsに貢献する行動



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「取り組んでいる」は男性 41.4%、女性 42.5%で、男女間で大きな差異はみられません。
年代	○「取り組んでいる」が高いのは、80歳以上の 50.0%、40歳代の 49.6%、50歳代の 47.6%となっています。 ○10歳代は 31.0%と最も低くなっています。10歳代は認知度は高いものの実際の行動に取り組むまでには至っていない様子がうかがえます。
居住地区	○居住地区の違いによる顕著な差異はみられません。
居住年数	○居住年数の違いによる顕著な差異はみられません。
世帯構成	○「取り組んでいる」は、単身世帯では 37.9%とやや低く、3世代家族等では 47.1%とやや高くなっています。
同居家族	○「取り組んでいる」は、介護を要する方がいる世帯では 35.3%とやや低く、6歳以上18歳未満の子どもがいる世帯では 46.2%とやや高くなっています。
職業	○「取り組んでいる」は、自営業の 52.4%、会社員・団体職員の 49.6%が高くなっています。
通勤 通学地	○「取り組んでいる」は、その他愛知県内に通勤通学する者が 52.4%で最も高くなっています。

図表 1-9-4 属性別、SDGsに貢献する行動

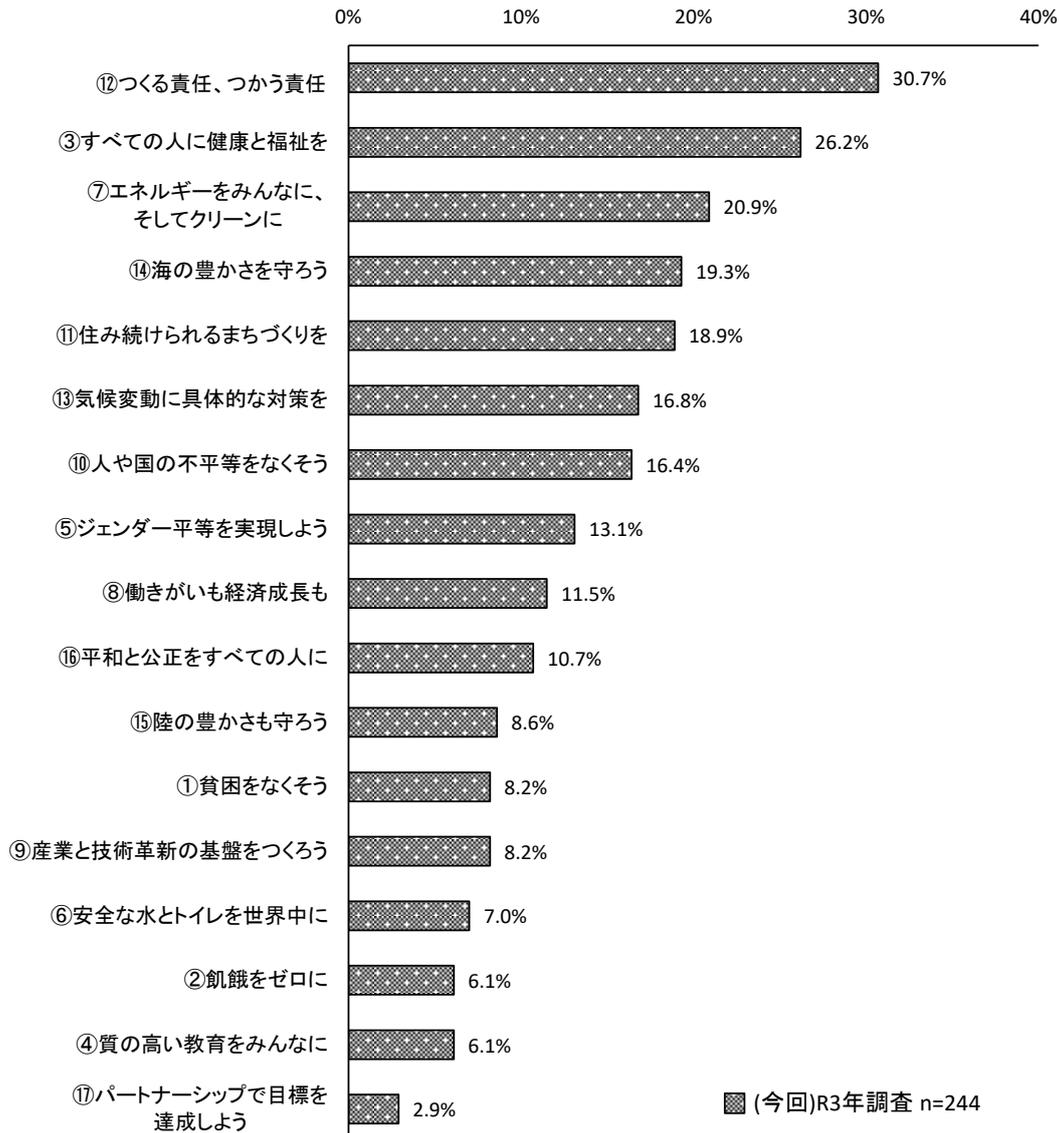


(3) 17のゴールとの関係性

問14-2 その取組は、17のゴールのいずれに関係が深いですか。(主な取組3つまでに○印)

エスディジーズ
SDGsに貢献する行動に取り組んでいると回答した244人を対象に、取組が17のゴールのいずれに関係が深いかをたずねました。これによると、「⑫つくる責任、つかう責任」が最も高く30.7%、次いで「③すべての人に健康と福祉を」の26.2%、「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の20.9%が高くなっています。これら3つは2割を超えています。

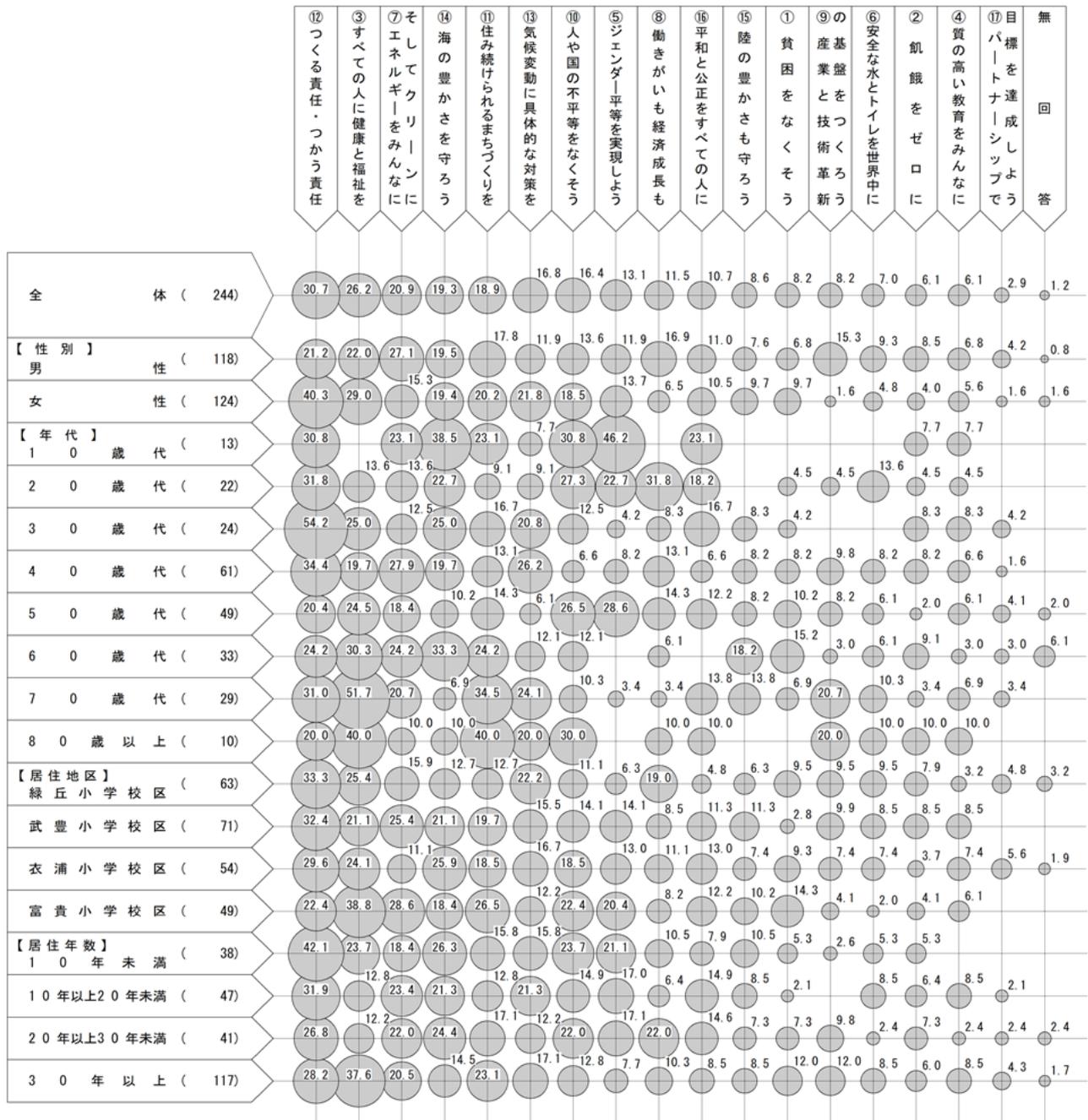
図表 1-9-5 17のゴールとの関係性 -複数回答(3つまで) -



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	<p>○女性では「⑫つくる責任・つかう責任」が40.3%に対して、男性は21.2%で、女性が19.1ポイント上回っています。</p> <p>○女性は「⑫つくる責任・つかう責任」が最も高くなっていますが、男性では「⑦エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」が最も高く27.1%となっています。</p>
年代	<p>○10歳代では「⑤ジェンダー平等を実現しよう」が46.2%で最も高くなっています。</p> <p>○30歳代では「⑫つくる責任・つかう責任」が54.2%で、全体の30.7%を23.5ポイントと大きく上回っています。</p> <p>○50歳代では「⑤ジェンダー平等を実現しよう」の28.6%、「⑩人や国の不平等をなくそう」の26.5%が上位2つになっています。</p> <p>○60歳代では「⑭海の豊かさを守ろう」の33.3%が最も高くなっています。</p> <p>○70歳代では「③すべての人に健康と福祉を」が最も高くなっています。</p>
居住地区	<p>○富貴小学校区では、「③すべての人に健康と福祉を」が38.8%で最も高くなっています。</p>
居住年数	<p>○居住年数30年以上では、「③すべての人に健康と福祉を」が37.6%で最も高くなっています。</p>
世帯構成	<p>○3世代家族等では、「⑩人や国の不平等をなくそう」が29.2%でやや高くなっています。</p>
同居家族	<p>○65歳以上の方がいる世帯、介護を要する方がいる世帯では、「③すべての人に健康と福祉を」がそれぞれ35.9%、41.7%で相対的に高くなっています。</p>
職業	<p>○学生では、「⑭海の豊かさを守ろう」、「⑤ジェンダー平等を実現しよう」がともに40.0%で最も高くなっています。</p> <p>○自営業では、「⑭海の豊かさを守ろう」、「⑬気候変動に具体的な対策を」がともに36.4%で最も高くなっています。</p> <p>○無職では、「③すべての人に健康と福祉を」が44.4%で最も高く、次いで「⑩住み続けられるまちづくりを」が41.7%となっています。</p>
通勤 通学地	<p>○その他愛知県内に通勤通学する者は「⑫つくる責任・つかう責任」が45.5%で相対的に高くなっています。</p>

図表 1-9-6 属性別、17のゴールとの関係性 (1/2) -複数回答 (3つまで) -



1-10 低炭素社会の実現

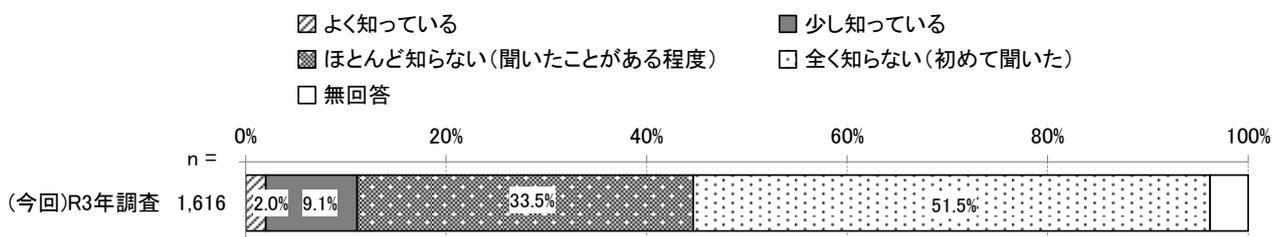
(1)「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度

問15 2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指して挑戦する「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」についてどの程度ご存じですか。(1つに○印)

「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度については、「よく知っている」は2.0%で少数にとどまっています。「少し知っている」は9.1%で、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせても11.1%しかありません。

「ほとんど知らない(聞いたことがある程度)」は33.5%、「全く知らない(初めて聞いた)」は51.5%となっています。半数の方は全く知らない状況です。

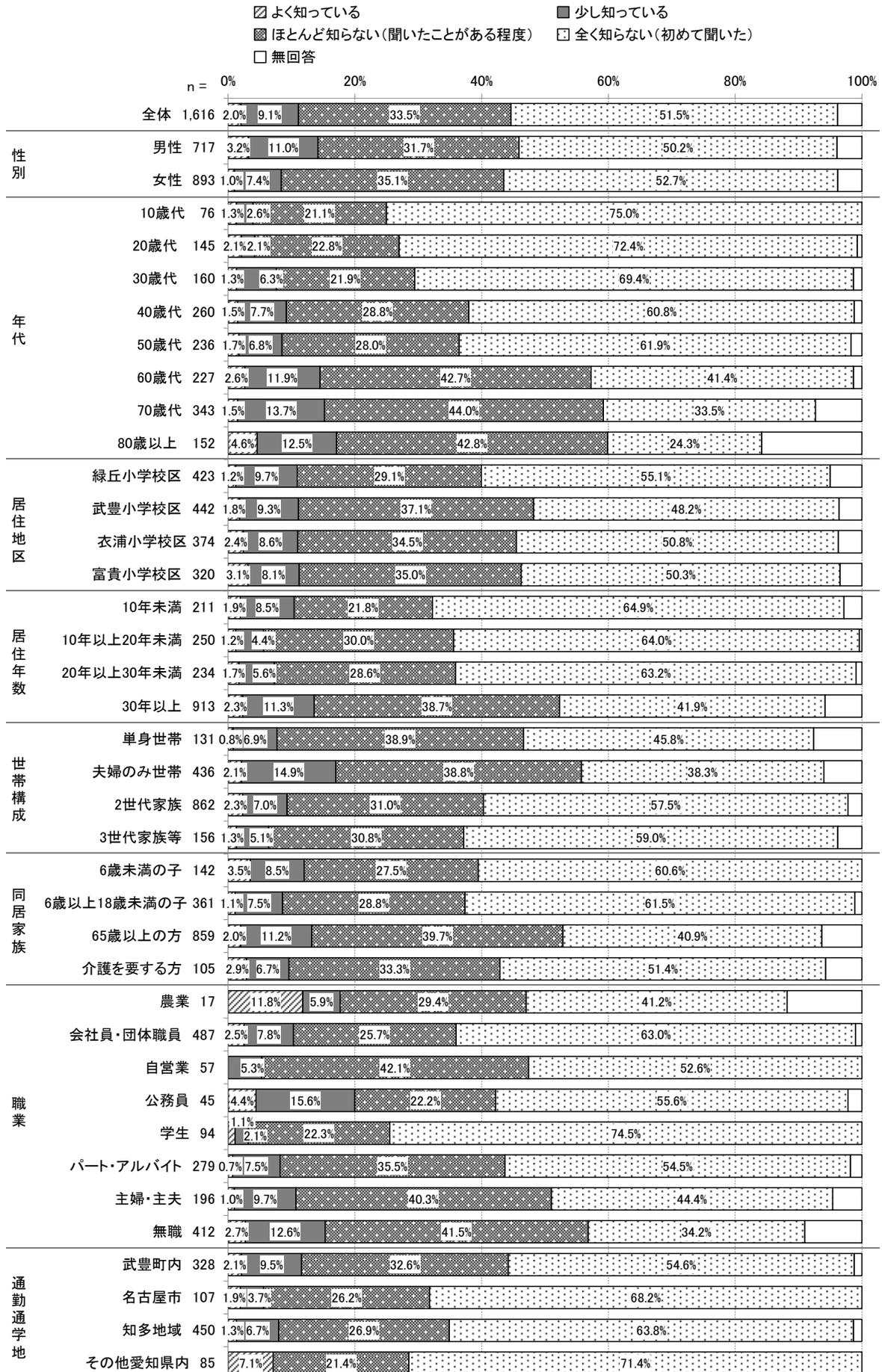
図表 1-10-1 「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合をみていくと、男性は14.2%、女性は8.4%です。男性の方が5.8ポイント上回っています。
年代	○性別と同様に、「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合をみていくと、10歳代は3.9%、20歳代は4.2%と非常に低い状況にあります。 ○次いで、30歳代の7.6%、50歳代の8.5%、40歳代の9.2%となっています。 ○60歳代は14.5%、70歳代は15.2%、80歳以上は17.1%で、60歳以上になると認知度は1割以上となっています。
居住地区	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合をみたとき、いずれの小学校校区も11%程度で、居住地区による顕著な差異はみられません。
居住年数	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合は、居住年数30年以上が13.6%で最も高く、次いで10年未満が10.4%と高くなっています。
世帯構成	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合は、夫婦のみ世帯が17.0%で最も高くなっています。
同居家族	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合は、65歳以上の方がいる世帯で13.2%、6歳未満の子がいる世帯で12.0%です。この2つが相対的に高くなっています。
職業	○「よく知っている」と「少し知っている」をあわせた割合を高い順にみていくと、公務員の20.0%、農業の17.7%、無職の15.3%となっています。
通勤通学地	○「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた割合は、武豊町内に通勤通学する者が11.6%で、やや高くなっています。

図表 1-10-2 属性別、「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」の認知度

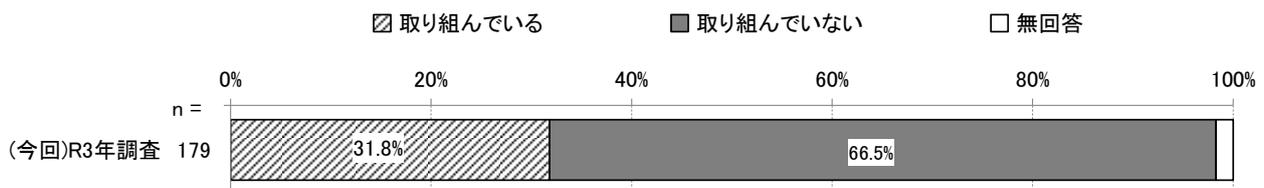


(2) 地球温暖化防止対策への取組

問15-1 低炭素社会を2050年までに実現するため、地球温暖化防止対策に取り組んでいますか。(1つに○印)

「武豊町ゼロカーボンシティ宣言」について「よく知っている」または「少し知っている」と回答した179人を対象に、地球温暖化防止対策に取り組んでいるかどうかについてたずねたところ、「取り組んでいる」は31.8%、「取り組んでいない」は66.5%となっています。取り組んでいない方が34.7ポイント上回っています。

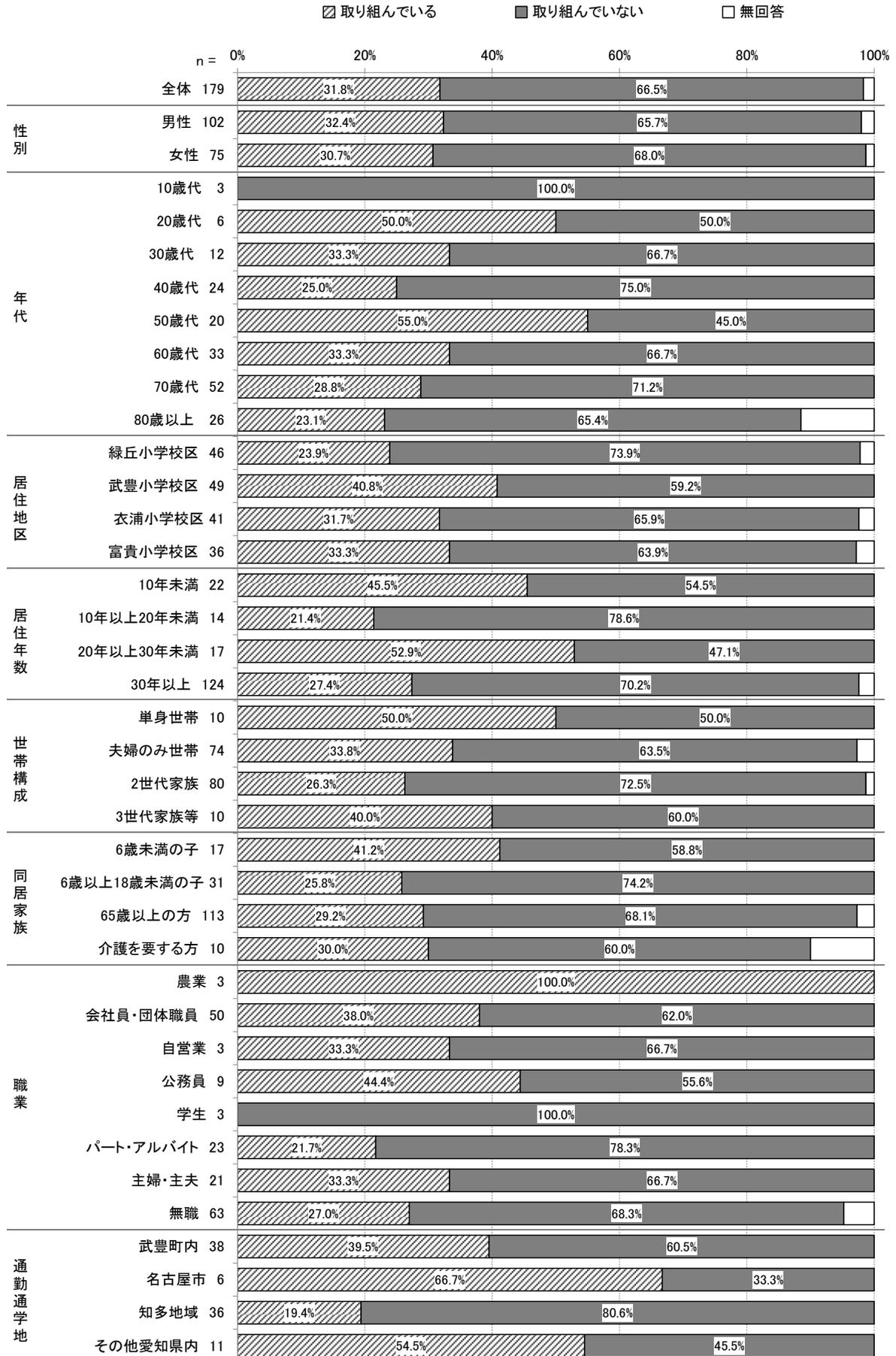
図表 1-10-3 地球温暖化防止対策への取組



以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

性別	○「取り組んでいる」は男性 32.4%、女性 30.7%で、男女間での差はわずかに 1.7 ポイントです。大きな差異はみられません。
年代	○20 歳代と 50 歳代では、「取り組んでいる」がそれぞれ 50.0%、55.0%となっています。この2つの年代でのみ5割を超えています。他は 20%台、30%台となっています。
居住地区	○武豊小学校区では、「取り組んでいる」が 40.8%とやや高く、緑丘小学校区では 23.9%とやや低くなっています。
居住年数	○「取り組んでいる」は、居住年数 20 年以上 30 年未満では 52.9%、10 年未満では 45.5%です。この両者が高くなっています。
世帯構成	○「取り組んでいる」は、単身世帯では 50.0%、3 世代家族等では 40.0%となっています。この両者が高くなっています。
同居家族	○「取り組んでいる」は、6 歳未満の子がいる世帯で 41.2%とやや高くなっています。
職業	○会社員・団体職員では、「取り組んでいる」は 38.0%となっています。 ○農業、自営業、公務員、学生は母数が少ないため、比較分析するには十分ではありません。
通勤通学地	○その他の愛知県に通勤通学する者では、「取り組んでいる」が多くなっています。 ○名古屋市は母数が少ないため、比較分析するには十分ではありません。

図表 1-10-4 属性別、地球温暖化防止対策への取組



1-1-1 町の魅力・イメージ

(1) 町の魅力、自慢できること

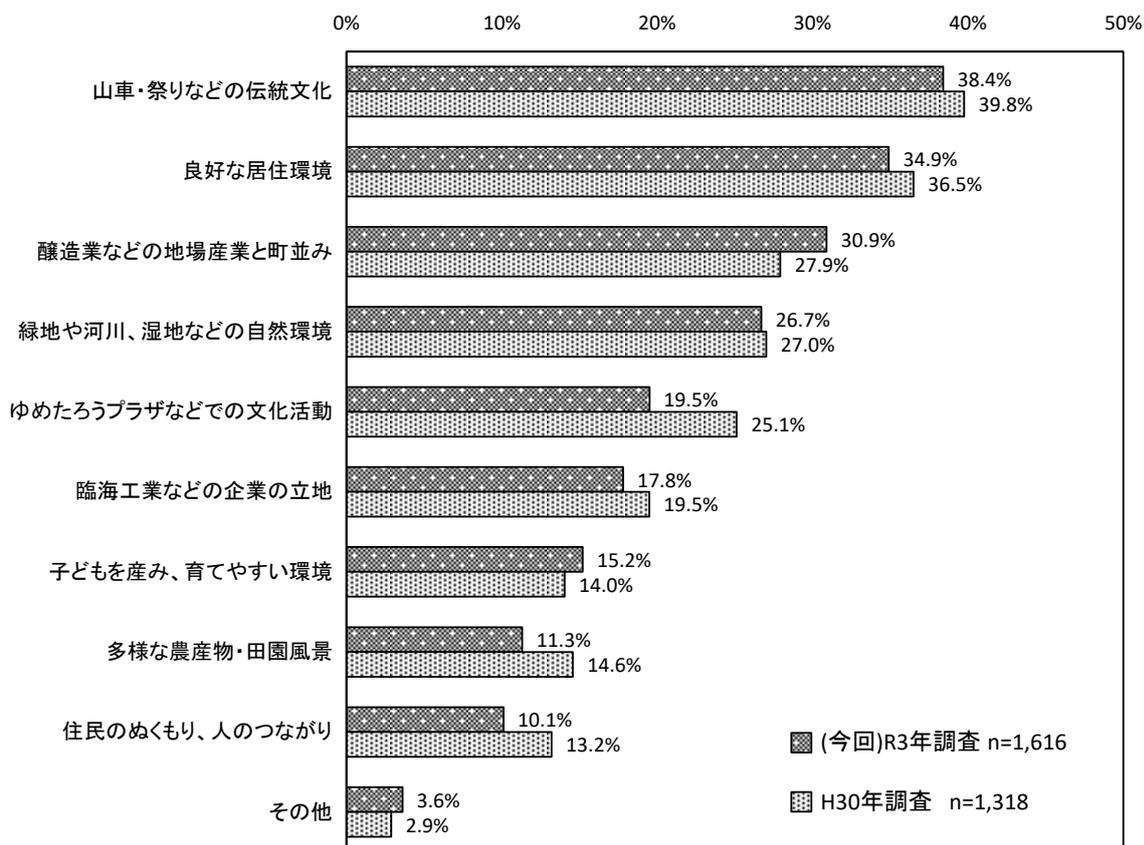
問16 あなたは、武豊町の魅力、自慢できると思うことは何ですか。(3つまでに○印)

武豊町の魅力、自慢できると思うことについては、「山車・祭りなどの伝統文化」が38.4%で最も高くなっています。これに「良好な居住環境」の34.9%、「醸造業などの地場産業と町並み」の30.9%が続いており、この3項目は3割以上の回答を得ています。

さらに、「緑地や河川、湿地などの自然環境」の26.7%、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」の19.5%が続いています。

平成30年調査と比較すると、「醸造業などの地場産業と町並み」は3.0ポイント上昇していますが、その他の項目はいずれもわずかながら低下しています。特に「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」は25.1%から19.5%と5.6ポイントの低下となっています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり活動が中止されていたことも少なからず影響したものと思われる。

図表 1-11-1 町の魅力、自慢できること（過去調査との比較） -複数回答（3つまで）-

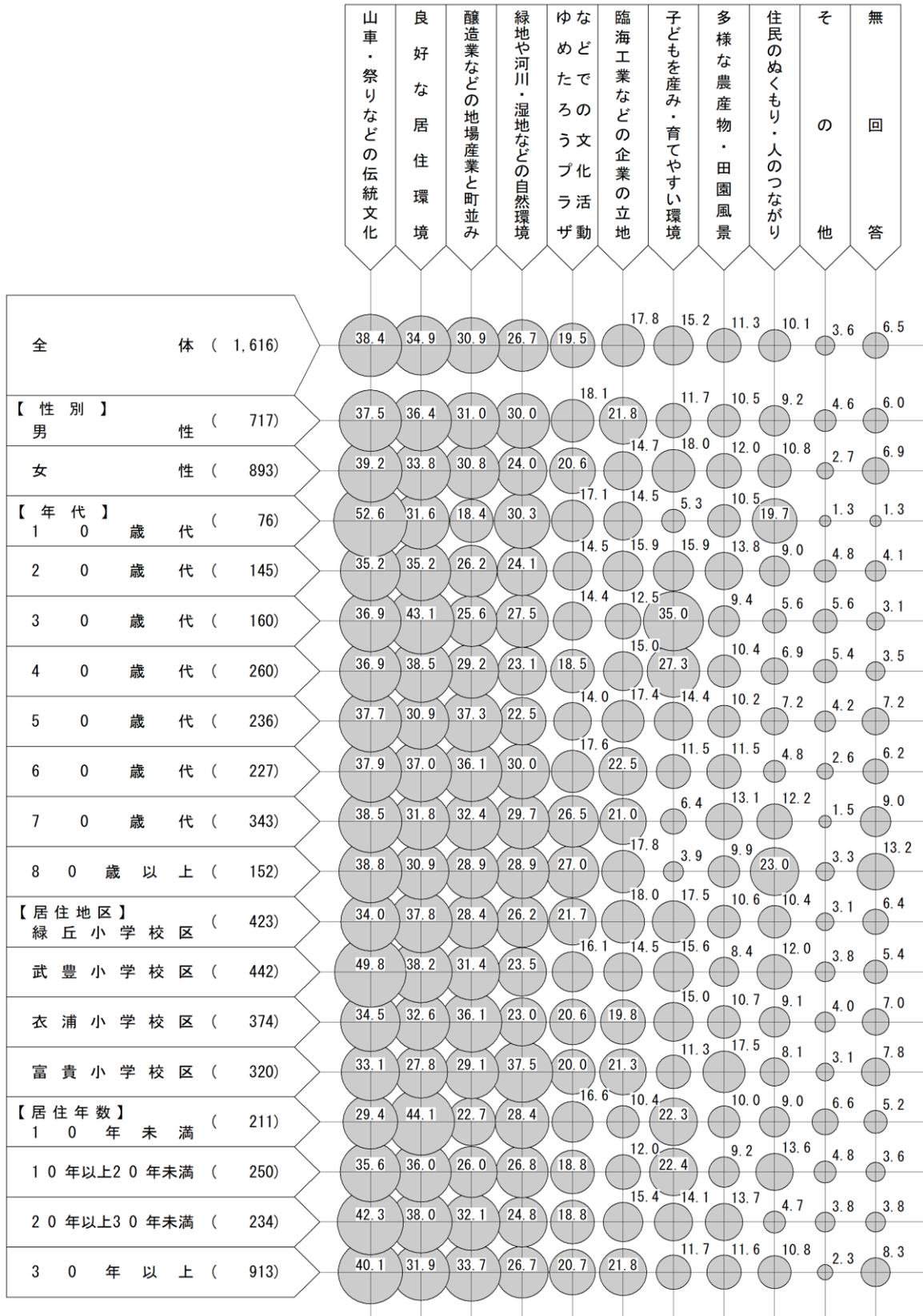


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

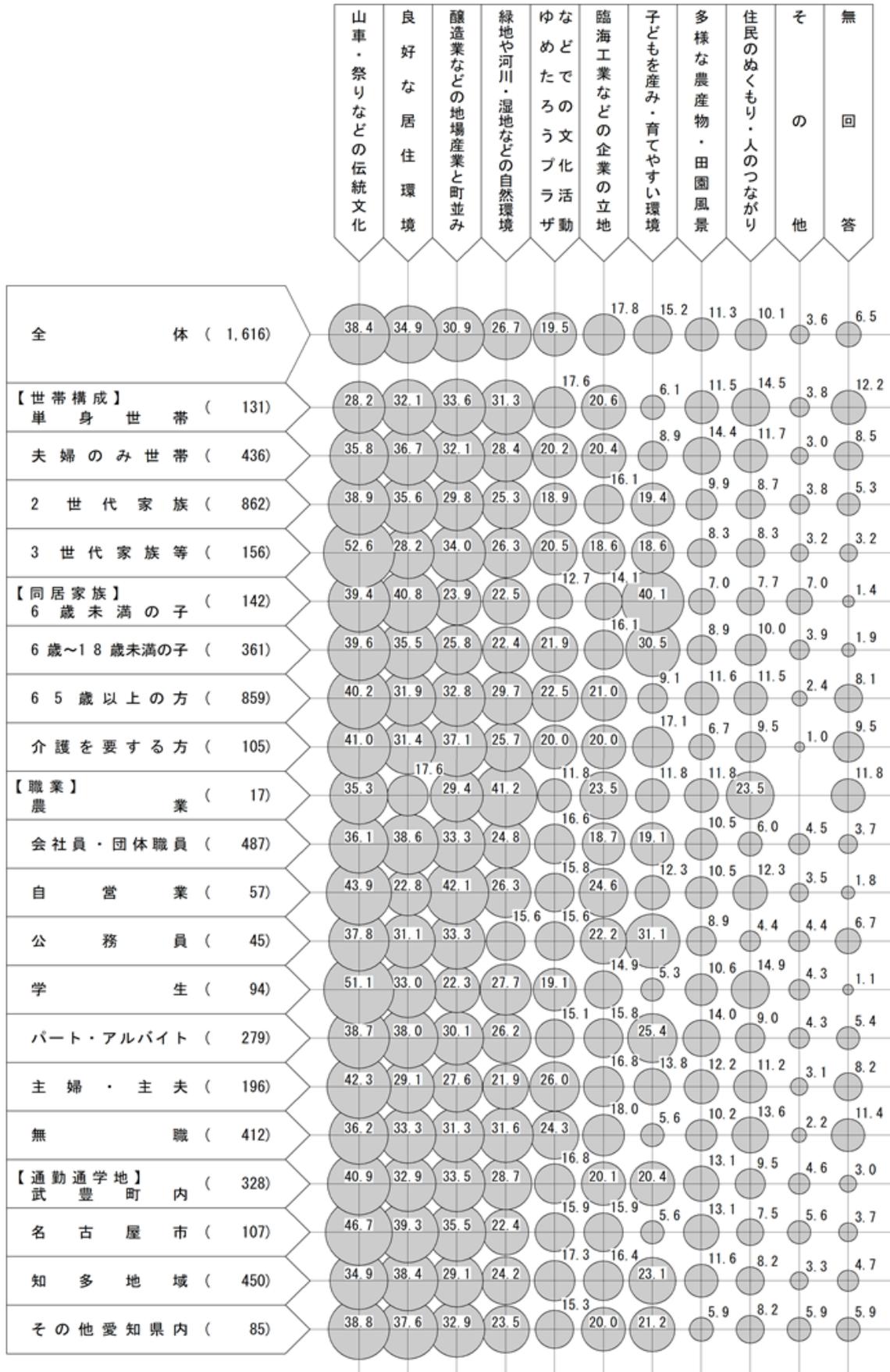
性別	<p>○全体の傾向と同様で、「山車・祭りなどの伝統文化」、「良好な居住環境」、「醸造業などの地場産業と町並み」の3項目は、男女ともに上位3つとなっています。</p> <p>○「緑地や河川、湿地などの自然環境」は、男性では30.0%、女性では24.0%で、男性が6.0ポイント上回っています。また、「臨海工業などの企業の立地」では男性が21.8%に対し女性は14.7%で、男性の方が7.1ポイント上回っています。</p> <p>○「子どもを産み、育てやすい環境」は女性が18.0%に対し男性は11.7%で、こちらは女性の方が6.3ポイント上回っています。</p>
年代	<p>○10歳代では、「山車・祭りなどの伝統文化」が52.6%と非常に高く、全体の38.4%を14.2ポイント上回っています。また、「住民のぬくもり・人のつながり」が19.7%でこれも全体の10.1%を9.6ポイント上回っています。</p> <p>○30歳代、40歳代では、「良好な居住環境」がそれぞれ43.1%、38.5%で、最も高くなっています。また、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ35.0%、27.3%となっており、相対的に高くなっている点が特徴です。</p> <p>○70歳代、80歳以上では、「ゆめたろうプラザなどでの文化活動」が26.5%、27.0%となっており、他の年代と比較すると高くなっています。また、「住民のぬくもり、人のつながり」は80歳以上で23.0%と高い割合を示しています。</p>
居住地区	<p>○緑丘小学校区では、「良好な居住環境」が37.8%で最も高くなっています。</p> <p>○武豊小学校区では、「山車・祭りなどの伝統文化」が49.8%で最も高くなっており、全体と比べ11.4ポイントも高い値となっています。</p> <p>○衣浦小学校区では、「醸造業などの地場産業と町並み」が36.1%で最も高くなっており、全体と比べ5.2ポイント高くなっています。</p> <p>○富貴小学校区では、「緑地や河川、湿地などの自然環境」が37.5%で最も高くなっています。</p> <p>○小学校区により、町の魅力、自慢できることの評価に違いがみられます。</p>
居住年数	<p>○居住年数10年未満及び10年以上20年未満では、1番目が「良好な居住環境」、2番目が「山車・祭りなどの伝統文化」となっています。これに続く3番目には「緑地や河川、湿地などの自然環境」が続いており、それぞれ28.4%、26.8%となっています。また、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ22.3%、22.4%と相対的に高くなっている点が特徴です。</p> <p>○居住年数20年以上30年未満及び30年以上では、「山車・祭りなどの伝統文化」がそれぞれ42.3%、40.1%と4割を超える高い割合を示しています。これに続いて、「良好な居住環境」、「醸造業などの地場産業と町並み」が高くなっています。</p>

世帯構成	<p>○単身世帯では、「醸造業などの地場産業と町並み」が 33.6%で最も高くなっています。</p> <p>○夫婦のみ世帯では、「良好な居住環境」が 36.7%で最も高くなっています。</p> <p>○2世代家族では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 38.9%で最も高くなっています。</p> <p>○3世代家族等では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 52.6%と特に高く、全体の 38.4%よりも 14.2 ポイントも高くなっています。</p> <p>○2世代家族や3世代家族等では、「子どもを産み、育てやすい環境」がそれぞれ 19.4%、18.6%と相対的に高くなっています。</p>
同居家族	<p>○6歳未満の子がいる世帯では、「子どもを産み、育てやすい環境」が 40.1%となっており、全体の 15.2%を 24.9 ポイントも上回っています。</p> <p>○同様に、6歳以上 18歳未満の子がいる世帯でも、「子どもを産み、育てやすい環境」は 30.5%となっており、全体よりも 15.3 ポイント上回っています。子どもがいる世帯は、「子どもを産み、育てやすい環境」を町の魅力、自慢と考えている割合が高いことがわかります。</p>
職業	<p>○会社員・団体職員では、「良好な居住環境」が 38.6%で最も高くなっています。</p> <p>○自営業では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 43.9%、「醸造業などの地場産業と町並み」が 42.1%で、この2つが特に高くなっています。</p> <p>○公務員では、「山車・祭りなどの伝統文化」の 37.8%、「醸造業などの地場産業と町並み」の 33.3%に続いて、「良好な居住環境」と「子どもを産み、育てやすい環境」がともに 31.1%となっています。</p> <p>○学生では、「山車・祭りなどの伝統文化」が 51.1%と非常に高い割合を示しています。</p>
通勤 通学地	<p>○名古屋市に通勤通学する者は「山車・祭りなどの伝統文化」が 46.7%となっており、全体と比べ 8.3 ポイント高くなっています。</p>

図表 1-11-2 属性別、町の魅力、自慢できること (1/2) -複数回答(3つまで)-



図表 1-11-2 属性別、町の魅力、自慢できること (2/2) -複数回答(3つまで)-



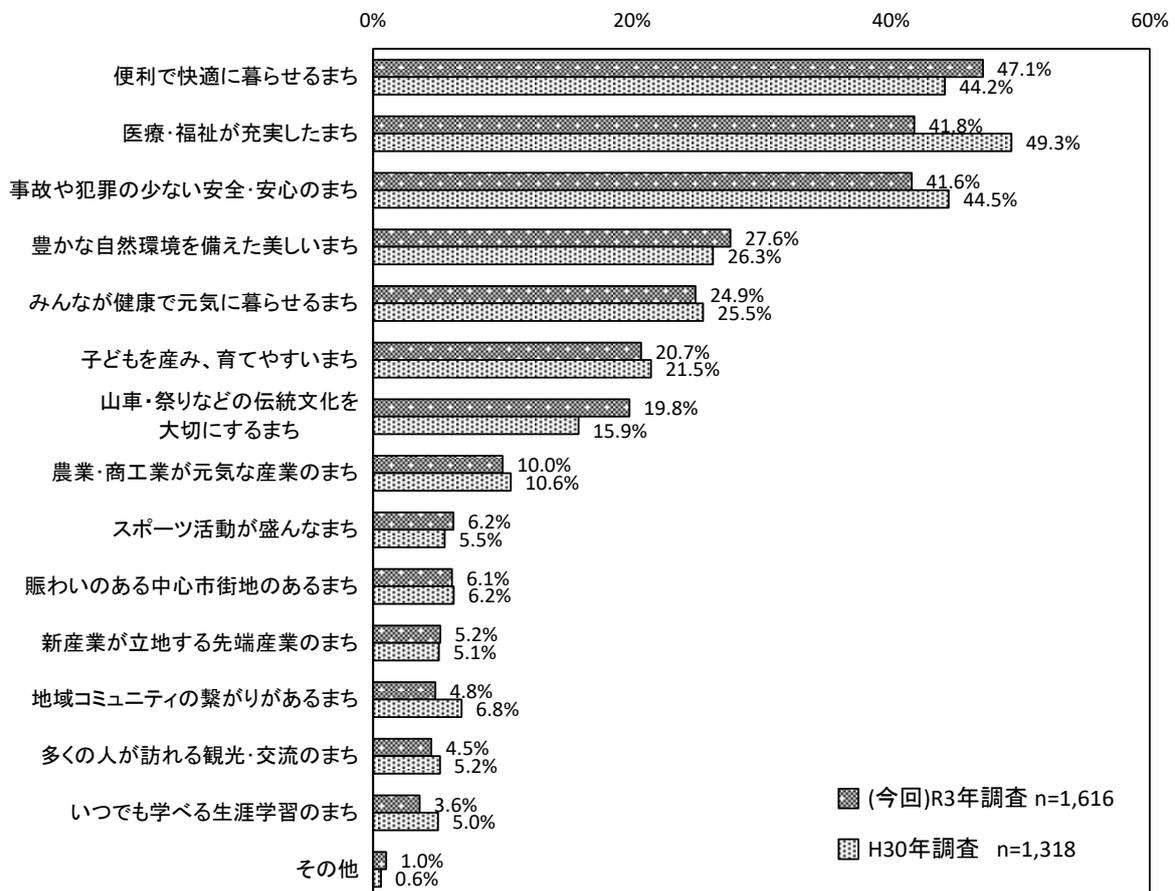
(2) 将来の町のイメージ

問17 あなたは、将来の武豊町のイメージとして、どのようなまちをめざすべきだと思いますか。(3つまでに○印)

将来の町のイメージについては、「便利で快適に暮らせるまち」が47.1%で最も高く、次いで、「医療・福祉が充実したまち」の41.8%、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」の41.6%が続いています。この3項目が4割を超える高い割合を示しています。

平成30年調査と比較すると、「便利で快適に暮らせるまち」は2.9ポイント上昇していますが、「医療・福祉が充実したまち」は7.5ポイント、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」は2.9ポイントの低下となっています。また、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にすまち」は15.9%から19.8%と3.9ポイントの上昇となっています。

図表 1-11-3 将来の町のイメージ（過去調査との比較） -複数回答（3つまで）-

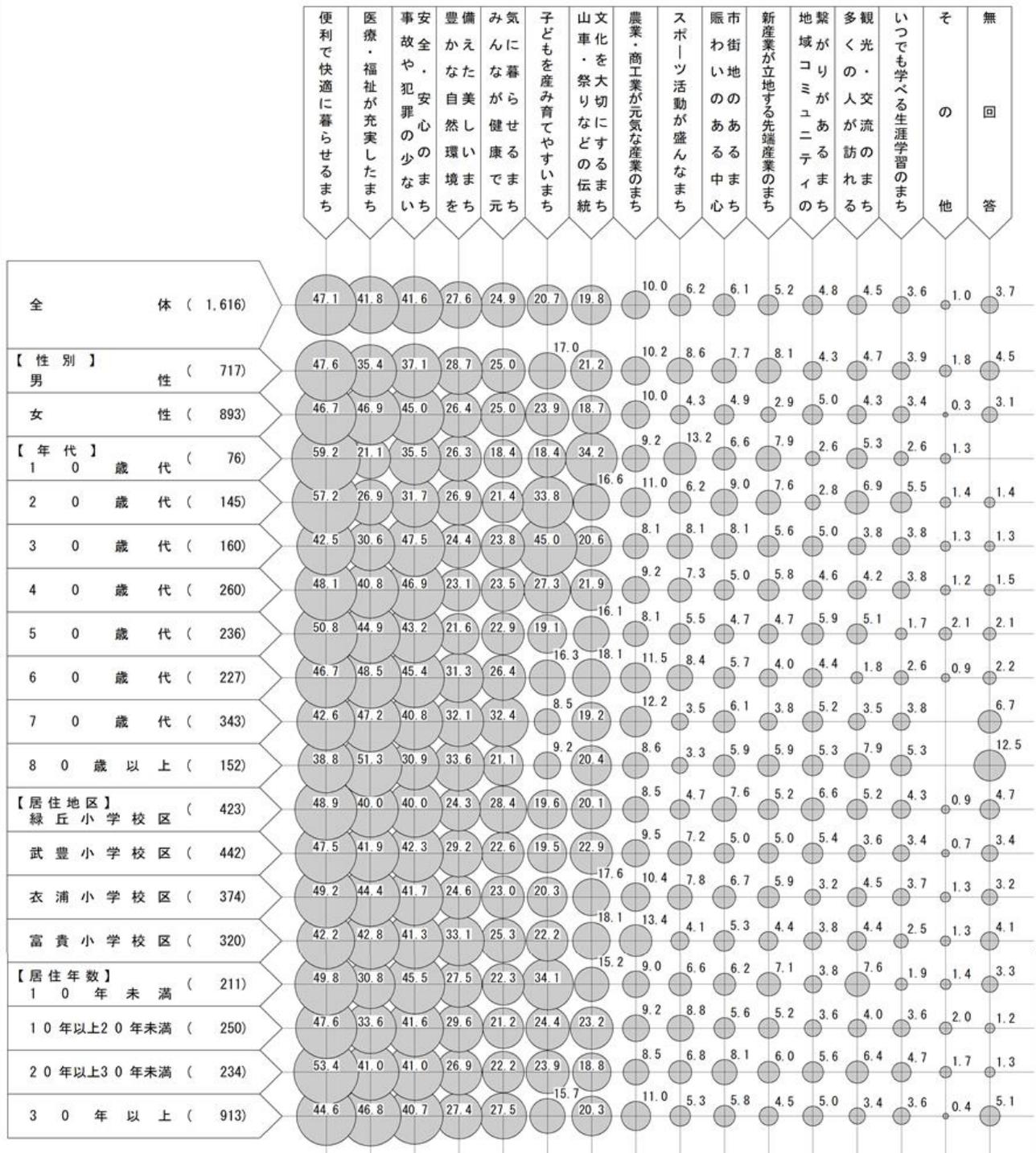


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

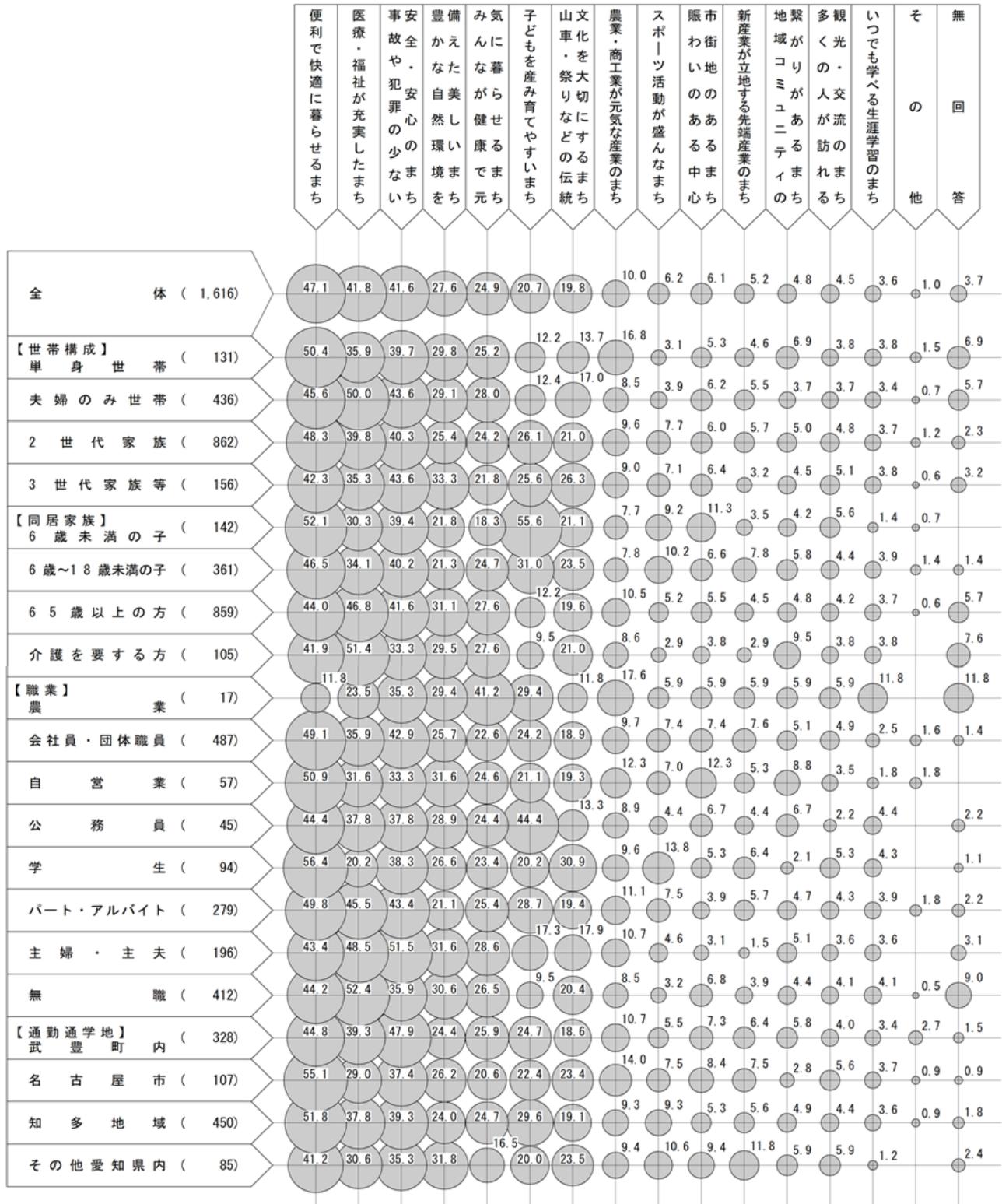
性別	○「医療・福祉が充実したまち」は女性が46.9%、男性が35.4%で、女性の方が11.5ポイント上回っています。また、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」でも、女性が45.0%、男性が37.1%で、女性の方が7.9ポイント上回っています。
----	--

年代	<p>○10 歳代では、「便利で快適に暮らせるまち」が 59.2%で最も多く、全体の 47.1%より 12.1 ポイントも高くなっています。また、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にす るまち」が 34.2%と高いことも 10 歳代の特徴となっています。</p> <p>○20 歳代、30 歳代では「子どもを産み、育てやすいまち」がそれぞれ 33.8%、45.0% で、それぞれの年代で 2 番目に高くなっています。</p> <p>○60 歳代、70 歳代、80 歳以上になると、「医療・福祉が充実したまち」が最も多くなり、 順に 48.5%、47.2%、51.3%となっています。</p>
居住地区	<p>○緑丘小学校区、武豊小学校区、衣浦小学校区では、「便利で快適に暮らせるまち」が 最も高く、順に 48.9%、47.5%、49.2%となっています。</p> <p>○富貴小学校では、「医療・福祉が充実したまち」が 42.8%で最も高くなっています。</p>
居住年数	<p>○居住年数 10 年未満では、「便利で快適に暮らせるまち」の 49.8%、「事故や犯罪の少 ない安全・安心のまち」の 45.5%が上位 2 つで、これに次いで「子どもを産み、育て やすいまち」の 34.1%が続いています。</p> <p>○この他の居住年数では、「便利で快適に暮らせるまち」、「医療・福祉が充実したまち」、 「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」が上位 3 位を占めています。</p>
世帯構成	<p>○夫婦のみ世帯では、「医療・福祉が充実したまち」が 50.0%となっており、全体の 41.8%よりも 8.2 ポイント高くなっています。</p> <p>○3 世代家族等では、「医療・福祉が充実したまち」は 35.3%とやや低く、「豊かな自然 環境を備えた美しいまち」の 33.3%や、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にす るまち」の 26.3%がやや高くなっています。</p>
同居家族	<p>○6 歳未満の子がいる世帯では、「子どもを産み、育てやすいまち」が 55.6%となっ ており、特に高い割合を示しています。</p> <p>○65 歳以上の方がいる世帯ならびに介護を要する方がいる世帯では、「医療・福祉が充 実したまち」がそれぞれ 46.8%、51.4%で最も高くなっています。</p>
職業	<p>○農業では、「みんなが健康で元気に暮らせるまち」が 41.2%で最も多くなっています。</p> <p>○会社員・団体職員、自営業、公務員、学生、パート・アルバイトでは、「便利で快適 に暮らせるまち」がそれぞれ 49.1%、50.9%、44.4%、56.4%、49.8%で最も高くな っています。</p> <p>○公務員では、「子どもを産み、育てやすいまち」も 44.4%で、最も高くなっています。</p> <p>○学生では、「山車・祭りなどの伝統文化を大切にするまち」が 30.9%で相対的に高く なっていることが特徴です。</p> <p>○主婦・主夫では、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」が 51.5%で最も高く、無職 では、「医療・福祉が充実したまち」が 52.4%で最も高くなっています。</p>
通勤 通学地	<p>○武豊町内に通勤通学する者は、「事故や犯罪の少ない安全・安心のまち」が 47.9%で 最も高く、全体の 41.6%より 6.3 ポイント高くなっています。</p> <p>○名古屋市に通勤通学する者は、「便利で快適に暮らせるまち」が 55.1%で、全体の 47.1%より 8.0 ポイント高くなっています。</p>

図表 1-11-4 属性別、将来の町のイメージ (1/2) -複数回答(3つまで)-



図表 1-11-4 属性別、将来の町のイメージ (2/2) -複数回答(3つまで)-



1-12 今後のまちづくり

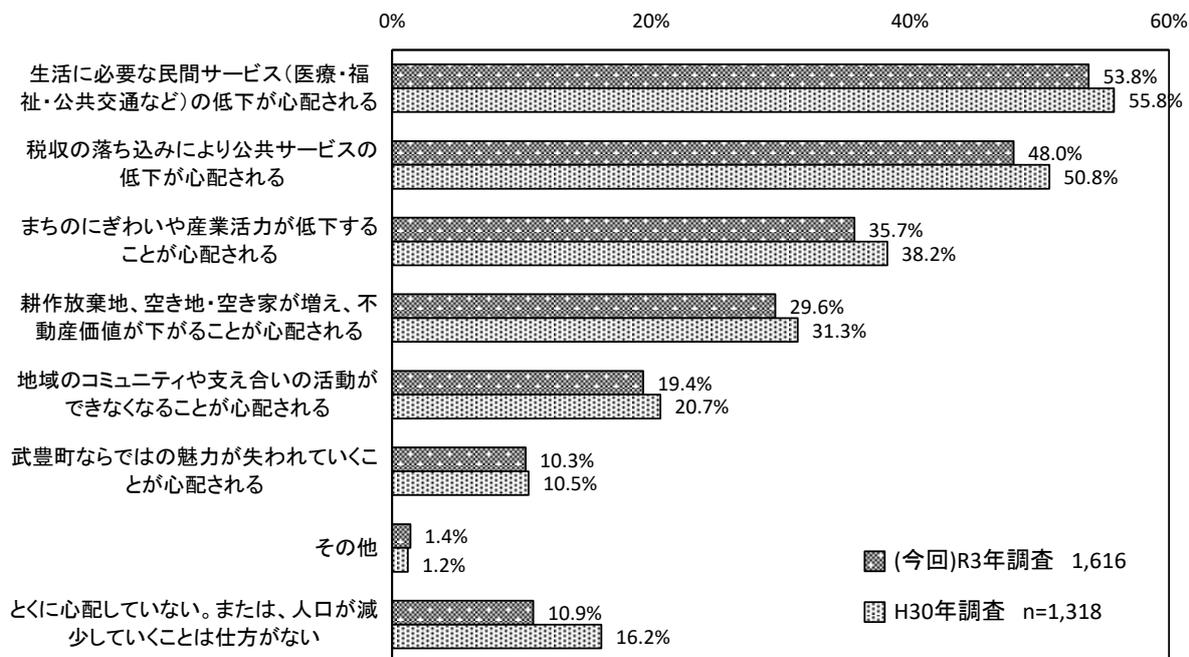
(1) 人口減少で心配されること

問18 全国的に少子高齢化が進む中であって、武豊町でも人口減少を迎えることが確実となっています。あなたは町の人口が減少することに対してどのようなことをお考えですか。
(3つまでに○印)

人口減少で心配されることとしては、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が53.8%で最も高くなっています。これに「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」の48.0%、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」の35.7%、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」の29.6%が続いています。

平成30年調査と比較すると、各項目の順位に変化はありませんが、回答割合はいずれの項目でもわずかに減少しています。

図表 1-12-1 人口減少で心配されること（過去調査との比較） -複数回答（3つまで）-

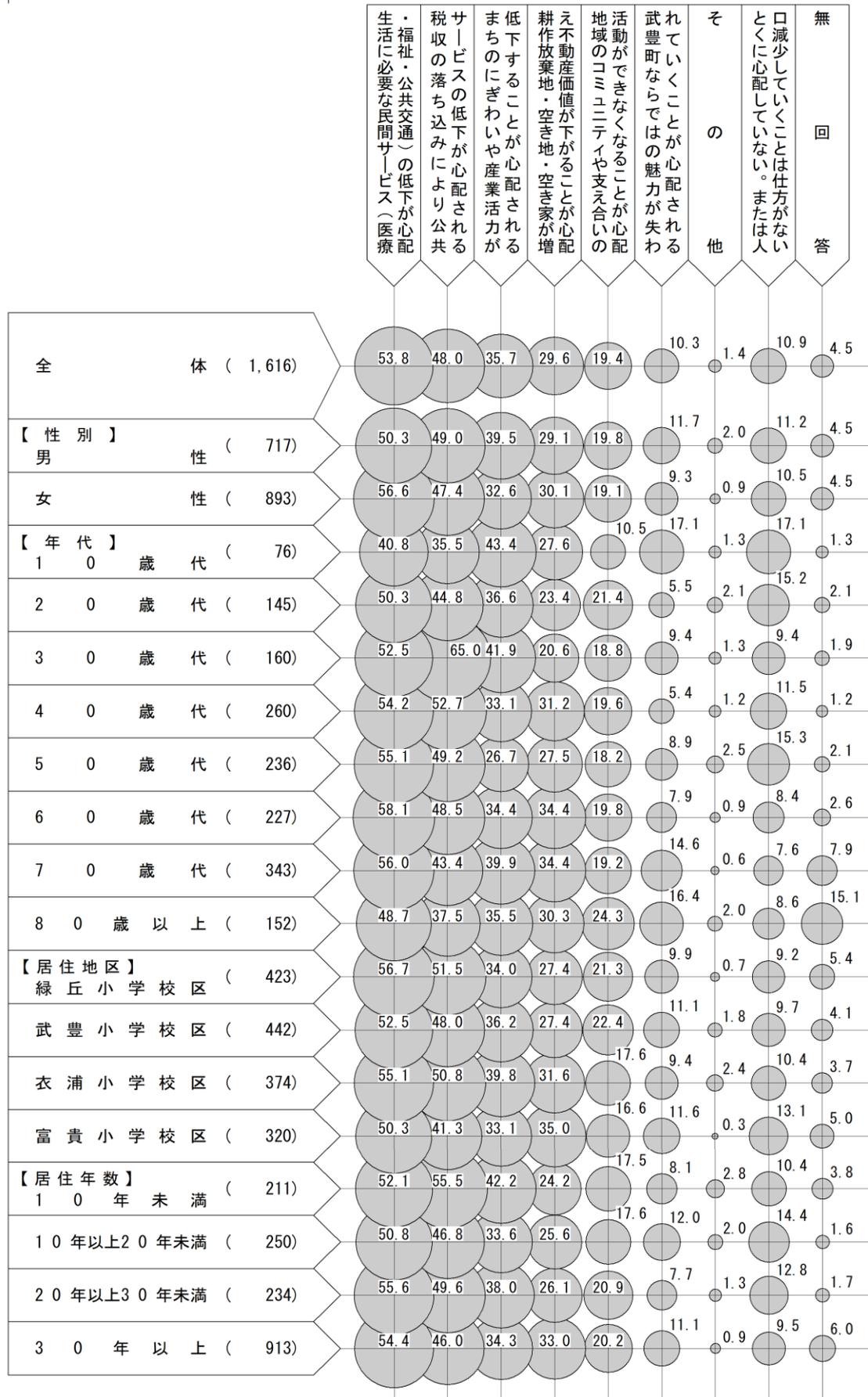


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

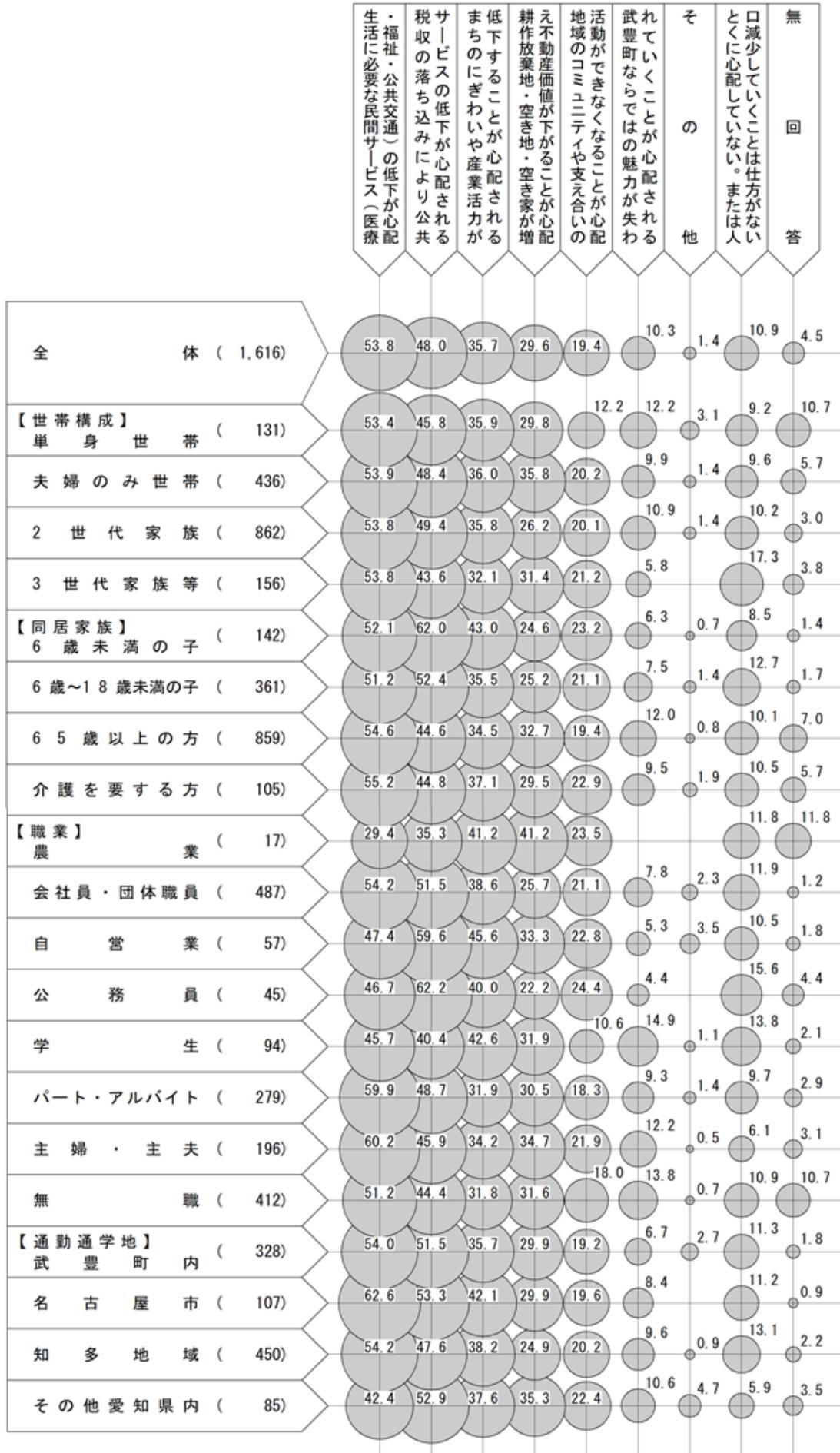
性別	<p>○「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」は女性の56.6%に対し男性は50.3%で、女性の方が6.3ポイント高くなっています。</p> <p>○「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」では、男性が39.5%に対し女性は32.6%で、男性の方が6.9ポイント高くなっています。</p>
年代	<p>○10歳代では、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が43.4%で最も高くなっています。また、「武豊町ならではの魅力が失われていくことが心配される」や「とくに心配していない。または、人口が減少していくことは仕方がない」がいずれも17.1%で、他の年代と比べると高くなっている点が特徴となっています。</p> <p>○30歳代では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」が65.0%で最も高くなっています、また、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が41.9%で相対的に高くなっています。</p> <p>○この他の年代では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が最も高くなっています。</p>
居住地区	<p>○富貴小学校区では、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」が35.0%で、3番目に高くなっています。</p>
居住年数	<p>○居住年数10年未満では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」が55.5%、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」が42.2%で、全体と比べそれぞれ7.5ポイント、6.5ポイント高くなっています。</p>
世帯構成	<p>○単身世帯では、「地域のコミュニティや支え合いの活動ができなくなることが心配される」は12.2%で、相対的に低くなっています。</p> <p>○夫婦のみ世帯では、「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」が35.8%で、全体と比べ6.2ポイント高くなっています。</p> <p>○3世代家族等では、「とくに心配していない。または、人口が減少していくことは仕方がない」が17.3%で、相対的に高くなっている点が特徴です。</p>
同居家族	<p>○6歳未満の子がいる世帯では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」が62.0%で全体と比べ14.0ポイント高くなっています。また、「まちのにぎわいや産業活力が低下することが心配される」も43.0%で、全体と比べ7.3ポイント高くなっています。</p>

職業	<p>○農業では、「まちなぎわいや産業活力が低下することが心配される」と「耕作放棄地、空き地・空き家が増え、不動産価値が下がることが心配される」がともに41.2%で最も高くなっています。</p> <p>○自営業では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下」が59.6%で全体と比べ11.6ポイント高く、また、「まちなぎわいや産業活力が低下することが心配される」が45.6%で、これも全体と比べ9.9ポイント高くなっています。</p> <p>○公務員では、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」が62.2%で、全体と比べ14.2ポイントも高くなっています。</p> <p>○パート・アルバイト、主婦・主夫では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」が、それぞれ59.9%、60.2%で、いずれも全体と比べ6ポイント以上高くなっています。</p>
通勤 通学地	<p>○名古屋市に通勤通学する者では、「生活に必要な民間サービス（医療・福祉・公共交通など）の低下が心配される」、「税収の落ち込みにより公共サービスの低下が心配される」、「まちなぎわいや産業活力が低下することが心配される」がいずれも全体の値を5ポイント以上上回っています。</p>

図表 1-12-2 属性別、人口減少で心配されること (1/2) -複数回答(3つまで)-



図表 1-12-2 属性別、人口減少で心配されること (2/2) -複数回答(3つまで)-



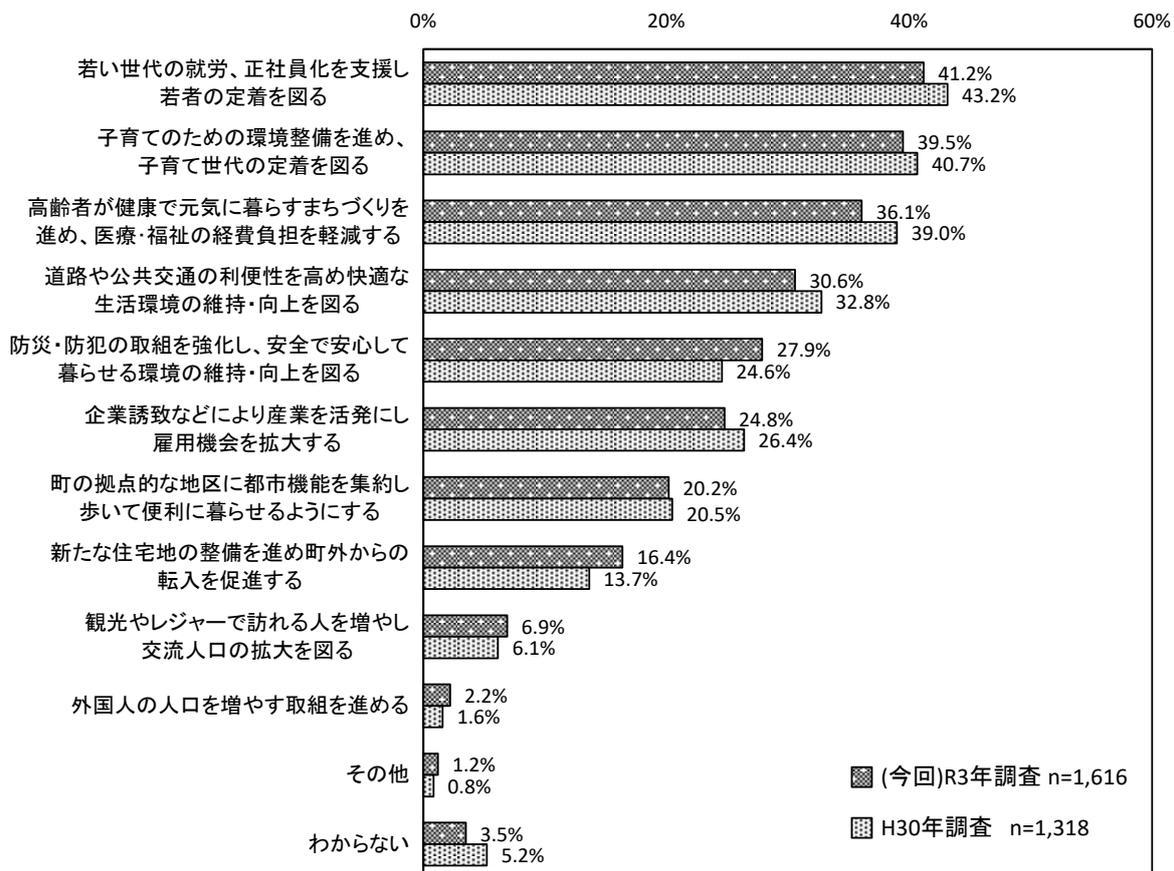
(2) 人口減少に対応するための取組

問19 武豊町において、「人口減少社会」に対応していくために、どのような取組が重要になると思いますか。(3つまでに○印)

人口減少社会に対応していくために重要となる取組としては、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が41.2%で最も高くなっています。次いで、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が39.5%、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が36.1%、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」が30.6%となっており、この3項目で3割以上の回答を得ています。さらに、「防災・防犯の取組を強化し、安全で安心して暮らせる環境の維持・向上を図る」の27.9%、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」の24.8%が続いています。

平成30年調査と比較すると、多くの項目で回答割合は低下していますが、「防災・防犯の取組を強化し、安全で安心して暮らせる環境の維持・向上を図る」と「新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する」の2項目についてはその割合を上昇させています。

図表 1-12-3 人口減少に対応するための取組（過去調査との比較） -複数回答（3つまで）-

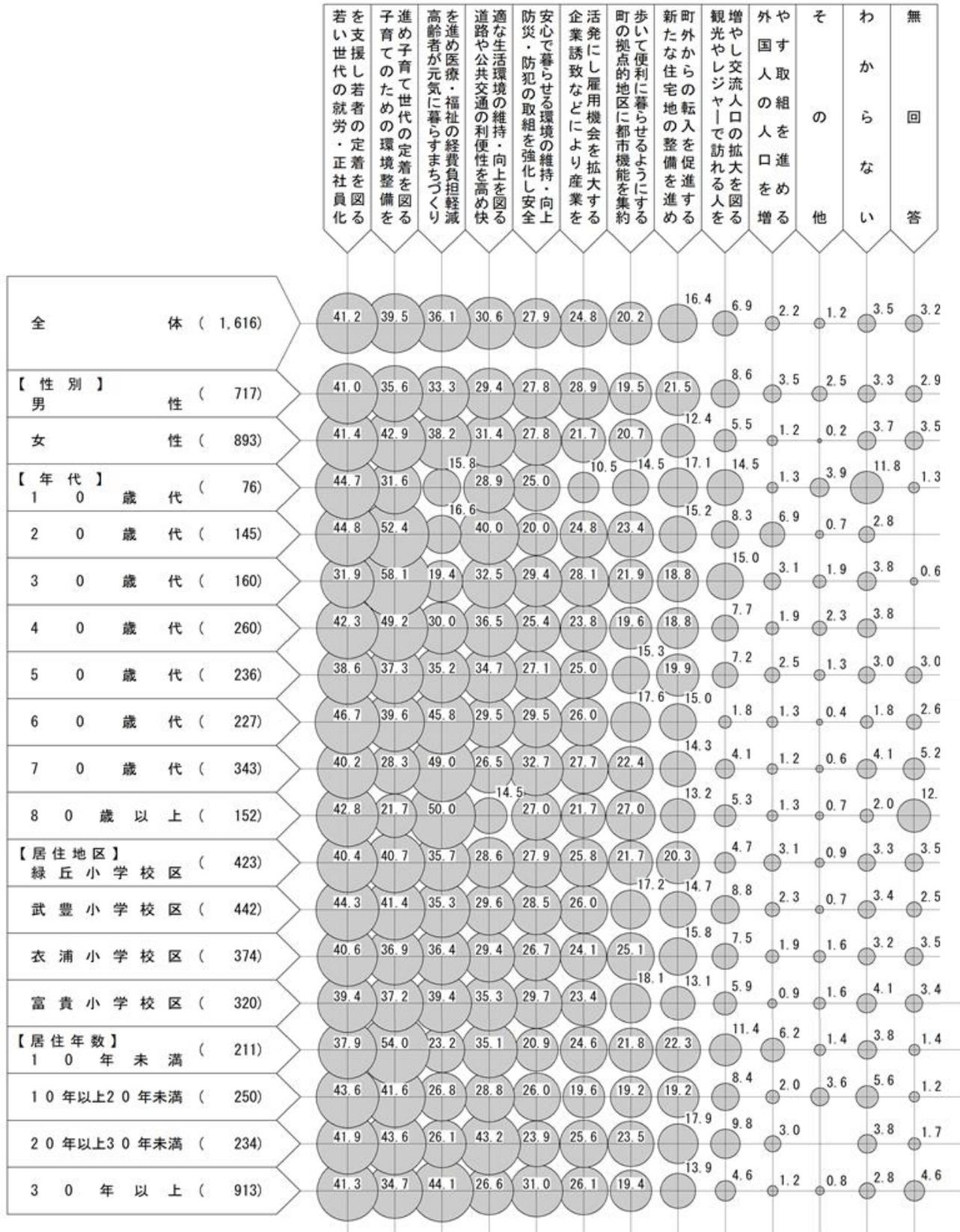


以下、回答者の属性別に傾向をみていきます。

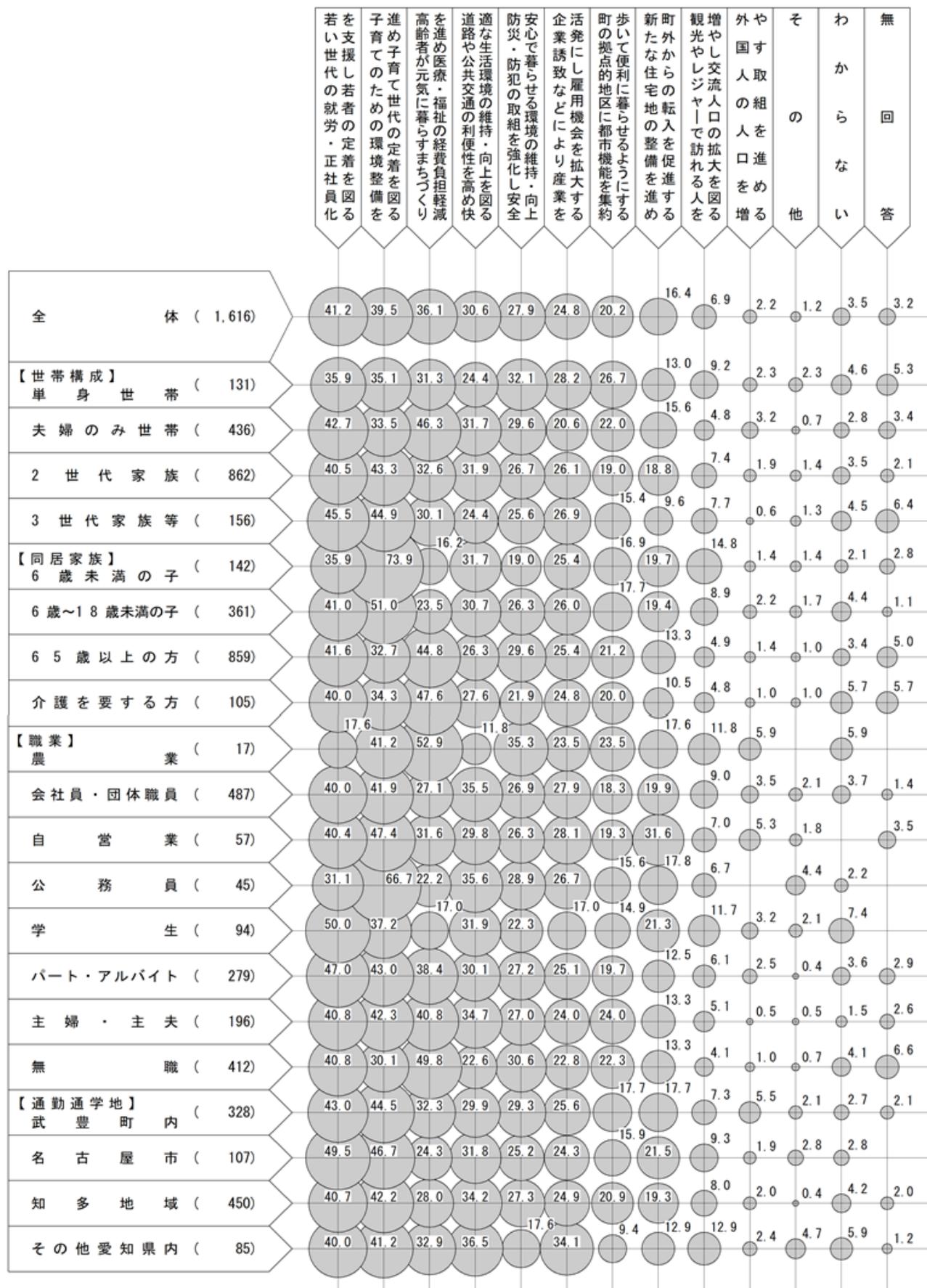
性別	<p>○女性では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 42.9%で、男性の 35.6%を 7.3 ポイント上回っています。</p> <p>○男性では、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」が 28.9%で、女性の 21.7%を 7.2 ポイント上回っています。また、「新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する」でも、男性は 21.5%で女性の 12.4%を 9.1 ポイント上回っています。</p>
年代	<p>○10 歳代では、「わからない」が 11.8%とやや高くなっています。</p> <p>○20 歳代、30 歳代、40 歳代では、いずれも「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が最も多く、それぞれ 52.4%、58.1%、49.2%でいずれも全体の値を大きく上回っています。</p> <p>○70 歳代、80 歳以上では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が最も多くなり、順に 49.0%、50.0%となっています。</p>
居住地区	<p>○居住地区の違いによる顕著な差異はみられません。</p>
居住年数	<p>○居住年数 10 年未満では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 54.0%で全体と比べ 14.5 ポイント高くなっています。</p> <p>○居住年数 20 年以上 30 年未満では、「道路や公共交通の利便性を高め、快適な生活環境の維持・向上を図る」が 43.2%で全体と比べ 12.6 ポイント高くなっています。</p> <p>○居住年数 30 年以上では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が 44.1%で、全体と比べ 8.0 ポイント上回っています。</p>
世帯構成	<p>○単身世帯では、「町の拠点的な地区に都市機能を集約し、歩いて便利に暮らせるようにする」が 26.7%で、他と比べやや高いことが特徴的です。</p> <p>○夫婦のみ世帯では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」が 46.3%で、全体と比べ 10.2 ポイント高くなっています。</p> <p>○3 世代家族等では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 44.9%で全体と比べ 5.4 ポイント高くなっています。</p>
同居家族	<p>○6 歳未満の子どもがいる世帯では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 73.9%で全体の 39.5%を 34.4 ポイントと大きく上回っており、極めて特徴的です。</p> <p>○6 歳以上 18 歳未満の子どもがいる世帯でも、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」は 51.0%と高く、全体と比べ 11.5 ポイント上回っています。</p> <p>○65 歳以上の方がいる世帯、介護を要する方がいる世帯では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」がそれぞれ 44.8%、47.6%で相対的に高くなっています。</p>

職業	<p>○会社員・団体職員、自営業、公務員では、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が最も高くなっています。特に公務員では 66.7%と非常に高く、全体の 39.5%を 27.2 ポイント上回っています。</p> <p>○自営業では、「新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する」が 31.6%で、他と比べて高くなっている点が特徴です。</p> <p>○学生、パート・アルバイトでは、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」がそれぞれ 50.0%、47.0%で最も高くなっています。</p> <p>○主婦・主夫、無職では、「高齢者が健康で元気に暮らすまちづくりを進め、医療・福祉の経費負担を軽減する」がそれぞれ 40.8%、49.8%で最も高くなっています。</p>
通勤 通学地	<p>○武豊町内に通勤通学する者は、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」が 44.5%で全体と比べ 5.0 ポイント高くなっています。</p> <p>○名古屋市に通勤通学する者は、「若い世代の就労、正社員化を支援し、若者の定着を図る」が 49.5%で、全体と比べ 8.3 ポイント高くなっています。また、「子育てのための環境整備を進め、子育て世代の定着を図る」も 46.7%で全体と比べ 7.2 ポイント高くなっています。</p> <p>○名古屋市に通勤通学する者では、「新たな住宅地の整備を進め、町外からの転入を促進する」が 21.5%で、相対的に高くなっています。</p> <p>○その他愛知県内に通勤通学する者では、「企業誘致などにより産業を活発にし、雇用機会を拡大する」が 34.1%で、全体と比べ 9.3 ポイント高くなっています。</p>

図表 1-12-4 属性別、人口減少に対応するための取組 (1/2) -複数回答(3つまで)-



図表 1-12-4 属性別、人口減少に対応するための取組 (2/2) -複数回答(3つまで)-



1-13 自由意見

(1) 今後のまちづくりに向けた意見・提案

問 20 武豊町の住みやすい魅力あるまちづくりに向けたご意見・ご提案などについて、自由に記述してください。

今後のまちづくりに向けた意見・提案を自由に回答いただきました。

第6次武豊町総合計画の体系（9つのまちづくりの目標・23の取組分野）に沿って、意見を整理すると回答数は以下の通りとなりました。

図表 1-13-1 今後のまちづくりに向けた意見・提案

取組分野 1 都市環境	件数
1-1 市街地・住環境	86
1-2 交通基盤	67
1-3 上下水道	4
(その他)	6
計	163
取組分野 2 子ども	件数
2-1 出産・子育て	46
計	46
取組分野 3 学び	件数
3-1 学校教育	12
3-2 生涯学習	1
3-3 スポーツ	1
3-4 文化芸術	5
(その他)	5
計	24
取組分野 4 健康・福祉	件数
4-1 健康・医療	13
4-2 地域福祉	2
4-3 高齢者福祉	10
4-4 障がい者福祉	1
(その他)	6
計	32
取組分野 5 安全・安心	件数
5-1 防災	9
5-2 防犯・交通安全	61
(その他)	4
計	74
取組分野 6 産業・交流	件数
6-1 産業	14
6-2 観光・交流	13
(その他)	15
計	37

取組分野7 環境	件数
7-1 自然環境	13
7-2 生活環境	24
計	37
取組分野8 まちづくり・地域経営	件数
8-1 住民活動…地域活動（住民協働）	10
8-2 相互理解（男女共同参画・多文化共生）	5
8-3 タウンプロモーション	25
計	40
取組分野9 行財政	件数
9-1 行政運営	66
9-2 財政運営	28
計	94
アンケートについて	件数
計	9
その他	件数
計	9
合計	570

